

特集 第27回東京モーターショー誌上公開
話題独占 '88ヤマハ



'87グッドデザイン賞

ヤマハスポーツバイク 3機種同時受賞

TDR250 & 風間深志選手

第6回ファラオ・ラリーでクラス優勝



東京モーターショー

誌上公開!



メインステージ

今回のショーのメインアテンション、『TDR250』を展示。ステージいっぱいに埋め込まれたTVモニターにより演出された『TDR250』が、来場者を釘付けにしました。

10月29日から11月9日までの12日間
にわたり、東京・晴海の見本市会場で
行なわれた第27回東京モーターショー。
今回は『走る喜び・人とくるまのトキ
メキ未来』をテーマに、4輪、2輪各
メーカー合せて69社が960車を出展、
入場者数は延べ129万7千人を数え、

ここ数年来最高を記録しました。
こんな中、会場ほぼ中央に設けられ
た2輪車館も連日記録的な入りを見せ、
中でもヤマハブースはユーザーニーズ
に即応した出展車群により、来場者の
注目度No.1と呼べるほどの人気を集め
ました。





第27回

4ストローク・テクノロジーコーナー

'87鈴鹿8時間耐久オートバイレースの優勝マシン『YZF750』をはじめ、『YZF400』やEXUPシステム、4輪F3000レース用エンジン『OX77』などの展示により、ヤマハの4サイクル・テクノロジーを紹介しました。



オンロードコーナー

ビッグバイク、テイスティ、ジェネシス、レーシングスピリットと、4つのテーマに分けられた大型コーナー。『XV250』やスペシャルカラーのFZRシリーズ、さらにニューカラーで登場の『TZR250』など、大きな話題となりました。





オフロードコーナー

ワークスマシンや北極点到達を達成した『TW 200 改』の中にあって、ひととき注目を集めていた『DT 125 R』。冒険心いっぱいのディスプレイが人気を集めました。



マリンコーナー

水上のモトクロスラーとして今人気抜群のマリンジェット『MJ 500 T』や競技用セイルボード『GP RACER 290』に並び、まったく新しいコンセプトのもとに開発されたプレイスクーター『BW'S(ビーウィズ)』が人気。ヤマハの遊びの世界の提唱です。



乗って、触って楽しんだ 二輪車館2Fヤマハコーナー

1階ヤマハブースに負けない人気を集めた会場2階のヤマハコーナー。現在市販されている各種ヤマハ車に、来場者は触って、またいで、大いにその感触を楽しみました。

また、一角に設けられた用品コーナーも、未来派ウェアやヤマハヘルメットのテクノロジーに人気集中(詳しくは本誌40ページをご覧ください)、会場2Fの話題を独占したヤマハコーナーでした。



江口社長記者会見

10月28日(プレスデー)には、専門誌や一般誌など多数集まった各メディアの記者を前に、江口社長自らがヤマハブースを説明。ヤマハ先進のテクノロジーへの絶賛の声とともに、大きな拍手を受けました。





TW200 XV400 SDR

ピラーゴ

3機種そろって グッドデザイン商品に

優良商品開発の奨励と消費者に対するデザインへの関心を高めることを目的に、通産省では毎年秋にその年の優良商品に対してグッド・デザイン認定商品としてGマークを送っています。

このGマーク商品の選定については、グッドデザイン審査会の厳しい審議の中で、その商品のデザインの優秀性はもちろん、品質、

機能、安全性など、あらゆる部分でのチェックが行なわれ決定します。

昭和62年度Gマーク商品に、ヤマハスポーツバイク、『TW200』『XV400ピラーゴ』『SDR』の3機種がそろって選ばれました。このGマーク商品3機種とともに、デザインのヤマハ、品質のヤマハを、年末商戦の話題としてお役立てください。

G TW200



G **XV400** ビラーゴ



ヤマハヘルメット **OE** も Gマーク商品に

ヤマハスポーツバイク3機種のGマーク同時選定と合せて、洗えるヘルメットとして好評を得ている「OE-YC3700」もGマーク商品に認定されました。合せてご案内ください。



グッドデザイン商品選定証
YAMAHA MOTOR CO., LTD.
1998年10月



G **SDR**





カラー

第27回東京モーターショー 誌上公開

ヤマハスポーツバイク Gマーク3機種同時受賞

TDR250/風間深志選手 第6回ファラオラリーでクラス優勝

特集

話題独占モーターショー・ヤマハブースを見て '88ヤマハへの期待

夢とロマン、そして冒険心。

'88ヤマハ★バイク3000台

- フォロー・ザ・トレンド/仕掛人が語る若者たちはいま 広がる健康ブーム
- NEWモデルのお客さま FZR400R
- お忙しい販売店さんのための情報アンテナ 情報スクランブル
- YAMAHA NOW 無人ヘリコプター
- 女性インストラクターの指導日記

- ヤマハ・トピックス
- レーシング・エキスプレス
- インフォメーション・フロム・ヤマハ
- Y.E.S.S.クラブ通信
- お店訪問・こんにちはヤマハです
- パーツ&アクセサリーズ
- ザ・レイティスト・アド



セールス・カレンダー 12~1月

12月	21月 納めの大師
師走	22火 冬至
5土 納めの水天宮	23水 皇太子誕生日
6日	24木 クリスマスイブ 納めの地藏
7月 こと納め	25金 クリスマス 終いの天神
8火 大雪 針供養	26土
9水 障害者の日	27日
10木 旧えびす講 納めの金毘羅	28月 官庁御用納め 納めの不動
11金	29火 年越
12土 正月こと始め	30水 大はらい
13日 松迎え	31木 除夜の鐘 そばの日
14月 すず払い	1月
15火 年賀郵便特別扱	睦月
16水	1日 元旦 年賀 初詣で
17木 浅草羽子板市	2土 初夢 初荷 書初
18金 納めの観音	3日
19土	4月
20日	5火 初水天宮 官庁御用初め

セールス 歳時記

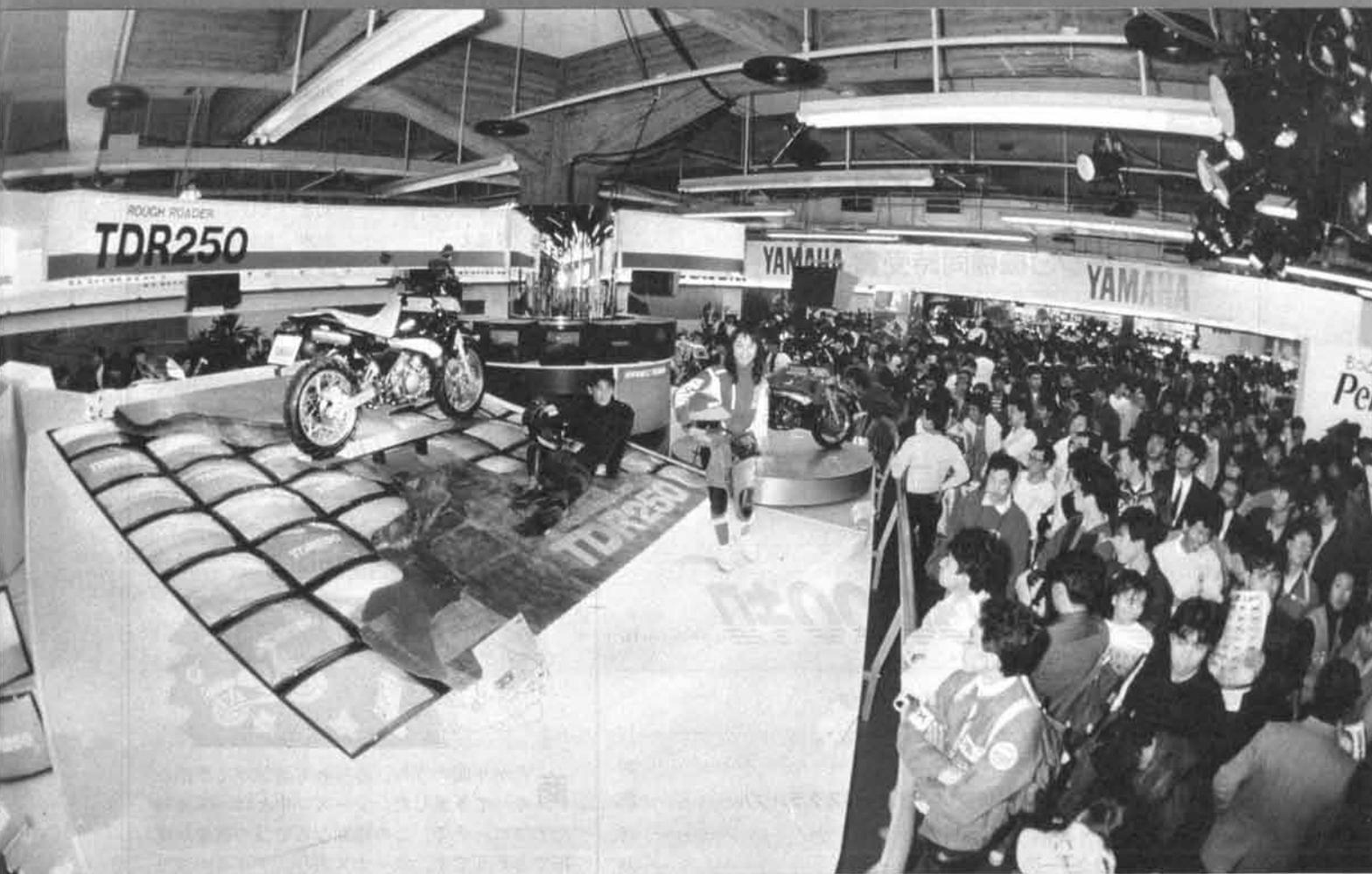


商 売が年間のうち、もっとも活気づく季節がやってきました。シーズン中とは一味違ったアプローチで、この時期ならではの需要が開拓できそうです。ボーナスあり、クリスマスセールあり、歳末大売出しで在庫用品の一气処分も良いかも知れません。お客さまのサイフがゆるむ季節です。

来 年の販売計画も、年内にやっておくべき作業です。今年いっぱい集めたデータをもとに、ジックリと市場を見つめ直してみましよう。意外なアタック・ポイントが発見できるかも知れません。まず目標をつくりましよう。

話題独占

モーターショー・ヤマハブースを見て…'88ヤマハへの期待



今回のモーターショー・二輪車館の最大の特徴は、四輪各社と比較して実現性の高い出展車が多かったことです。中でもヤマハブースは、『TDR250』や『XV250ビラーゴ』、『BWS』など、すぐに市場導入が可能な完成度の高いモデルの出展で、来場者のみなさんの近未来への期待を集めました。

ここでは、これら出展各車を通して見た、'88年ヤマハへの期待を、二輪ジャーナリスト、二輪車販売店のみなさん、そしてユーザーと、それぞれの立場から語っていただきました。来年度のご商売の参考に、ぜひお役立てください。

新しいバイクライフを築く “熟成”のマシンたち

最初の登場は、二輪ジャーナリストの山本一成氏です。氏は、本誌一昨年のシリーズ「ヤマハ・レーシング・スピリット」や昨年のシリーズ「ヤマハラしさを求めて」の執筆者です。二輪車評論の専門家の目から見た、今回のモーターショー出展車の可能性を語っていただきます。お客さまへの商品情報のご参考にとつて。

第27回を迎えた東京モーターショーは、史上2番目の観客動員数を記録して大盛況のうちに終わりました。全体にハイテク・ムードが強かったわけですが、ヤマハ・ブースを見て私は安心すると同時に、来期のヤマハに大きな期待を持つことができました。

それは何か。バイクは心の新大陸というテーマの中に、深い意味があることを理解できたからです。ハイテクをバイクに導入しさえすれば魅力あるバイクとなる、といった安易な発想をせず、ライダーにとって本当に必要なハイテクとは何か?ライダーにとって本当の夢とは何か?をしっかりと地に足が着いた姿勢で扱えていることが展示されたヤマハのバイクから感じ取れたのです。何もかもが目まぐるしく変化するこの時代だからこそ今回のヤマハ・ブースは意義深かったのだと思います。

商品企画力でますます冴えたパワーを見せてくれるヤマハならではのセンスがモーターショーという場でも、しっかりと発揮されていたといきれるでしょう。

さて、中でも大きな注目を浴びたTDR250、XV250ピラーゴ、TZR250、DTI25R、BWSの5機種について、もっと掘り下げた私なりの解釈をしてみました。

可能性限りなき、

最高のツーリング・アイテム

まずはTDR250。より多くの人々にバイクの世界を知ってもらうために、常に新しい世界を切り開いてきたヤマハが放つ期待のニューバイクであることを、このスタイルから容易に知ることができました。

エンジンは2ストローク水冷並列2気筒。そう、あのTZR250のものを細部にわたってリファインしたものだ。新開発のクロスアツプマフラーと世界初のデジタル進角CDI点火方式採用のほか、冷却系や減速比変更などTDR250のキャラクターにベスト・フィットさせている点、デリカシー溢れるヤマハラしいところだと思います。

車体系は、高張力鋼管採用の軽量・ダブルクレードル型フレームとして、オンからオフに至る幅広い走行に合ったものとなっている。サスペンションはフロントにダンピングとスプリング・イニシャル調整機構を持ち、インナーチューブは高剛性の38mm径のものを採用。リヤは、リンク式モノクロス・サスペンション。クッション・ユニットはイニシャルと減衰力調整可能なほかに熱ダレ防止のためにアルミ製サブタンク付きとして本格的

なまとめこみを見せています。ホイールトラベルは前160mm、後150mmと十分な量確保。

ブレーキはあのTZR250と同径の320mm。フローティング・ディスクと対向ピストン・4ポットキャリパーを前輪にセットするだけでなく、バリアブルタッチ・ブレーキ・システムの採用により、オフでもオンでも理想のコントロールができるようになっていきます。なお後輪ブレーキは210mm径のディスクと対向ピストンキャリパーを装備。ブレーキの効きと味が大きくリードするヤマハラならではの世界がこのTDRに存分に注がれていることが分ります。

フェアリングはウインドプロテクション効果を発揮できる大きさを確保しつつ、高速やオフでの走り良さを追求しているところなど、これまた操縦安定性で定評あるヤマハラらしい仕上げだといえるでしょう。

ホイールはアルミリム付きのスポーク



タイプで、タイヤは新開発のオン／オフ両用型。ホイール径は前輪18インチ、後輪17インチ。

と、概要は以上なのですが、私がつくづく感心させられたのは、TDR250開発スタッフの意気込みの凄さにあります。自在にどこへでも、そしてどんな距離でも走ってしまいたくなるバイクとは何かを徹底的に求め、しかもそれを頭の中の世界だけでなく、実際に日本中を走りまわって得たスタイルがTDR250だったというのです。開発スタッフのひとりがこういいました。

「北海道の限らない広さこそ、TDR250にぴったりではないでしょうか。街中で走っても、ツーリングに行ってもTDRだと、いつも北海道のあの広さを連想してしまふ。何か心が広がったような、心が洗われるような清涼感があるんです」

レーシーなバイクにはない、ゆったりとした乗車感。だけに必要な時に、欲しいだけ得られる圧倒的パワーと信頼の車体系。そんな要素がしっかりとあるからこそTDRの技術者は、これほどまでにロマンチックな証言をしてしまったのではないのでしょうか。

TDR250が現実に市販された場合、やはり、どんなところへでも行けることから、日本の一般的林道を含めたツーリングのアイテムとして最高のものといえるでしょう。また、街中でも独得のスタイルで注目される上に、パンチのあるパワーで小気味よいフットワークを見せるはず。何といってもラクなライディング、ボジションとどんなウェアでも似合ってしまう大らかなキャラクターがTDR250の持ち味ではないでしょうか。

レーシーモデルに少し抵抗を持つユーザーや、以前バイクに乗っていて再びバイクライフを始める人などにもビタリとフィットすることと思います。

本格的つくり込みとゆるしの仕上げ

次に、アメリカンタイプあるいはシテイ・クルーザーの分野でいつもリーダー的存在であるヤマハが放つ魅力商品がXV250ピラーゴ。かつての250ccクラスのアメリカーンといえば既成のエンジンを流用し、各部の造形や仕上げでも徹底していないものが多かったのですが、このXV250ピラーゴは明らかにスタートラインから違うことがわかります。

250だから、ではなく、250でも本物でなければならぬ、という技術者の熱い思い入れがひしひしと伝わってきます。

まずは、エンジン。アメリカンあるいはシテイ・クルーザーとしてふさわしいエンジンをゼロから開発して求めた結果が空冷OHV60度Vツインであったこと。

Vツイン特有の味わいだけでなく、外観から想像するゆったりとしたイメージまでも大切にされた結果であったのです。理論でなく感性にもシビアなヤマハのこだわりをここで感じ取ることができそうです。

数多い魅力のうち、特に「ああ、ヤマハだな」と思えるのが塗装の素晴らしさです。色の指定はもはや伝統ともいえるほど卓越していると断言できると思います。このグレードならたとえ隣にビッグマシンが並んでも、悠々たるムードでいられることは確実。

マイベースのロングツーリングにピッタリですが、都会を美しく走ったり、あるいはさまざまな商売のオブジェとしても、これならいける、と思わずにはいられません。

走ることもいいが、磨いたり、バイクとともに楽しいひとときを過す人に、このリラックスしたXV250ピラーゴは最適ではないでしょうか。そして取りまわしの軽さと低いシートは、誰にとつて

も心からありがたい魅力です。

熟成の名車がまたひとつ

そして私がつくづく感心させたのがTZR250でした。ヤマハは常に新しいジャンルを切り開いてきた力強い存在であり、しかもそれ以上にわかる人に強く共鳴する、しっかりとしたポリシーを持ち続けるメーカーです。それは、熟成、という一見地味だが、なくてはならない要素なのです。

あの超ロングベストセラーのSR400/500、SRX400/600、RZ250Rを見ていただければおわかりになるようにユーザーとの深く強い絆は、熟成によって生まれ、またこれこそがヤマハの良心だといえるのです。改めるべきところは改め、優れたところは大切に守る。この一見簡単そうに見える作業は、ライダーの感性を大切にできるヤマハだからこそ成し得るのです。

さて、そのTZR250の具体的改良点を詳述してみましょう。エンジン系ではY.P.V.Sに加えて補助排気バルブを採用、これにより排気効率の向上を実現。リードバルブの大型化によって吸入のスムーズさを向上させて高回転での性能をアップ。シリンダー壁にニッケル分散メッキを、ピストンリングにはチタンメッキを施して十分な耐久性を確保。さらにクランクケースを新しくしたほか、軽量ピストンや強化コンロッドを採用。イグニッションはCDIにデジタル進角をプラスしてパワーアップに貢献。

車体系では出力向上に伴って、TZと同タイプの4ポットキャリパーを装備し、ディスクブレーキをダブル化。ホイールは中空アルミホイールのリム幅を拡大す





新しき時代の予感

オフロードのワールドで胸をときめかせる一台がDT125R。DT125がかつて水冷化された時に与えた強烈な加速感が再びこのDTで蘇っています。Y P V S 付き単気筒水冷エンジンは、クラシク室リードバルブ吸気方式と高速遅角型CDIを採用。車体系では、'88型YZ250同様に前後ディスクブレーキを装備。フロントフォークのインナーチューブ径は41mm径という太さで剛性を確保。リヤサスはもちろんリンク式モノクロス型、サスペンション・ストロークは前270mm、後260mm。燃料タンクは左右非対称の低重心型。それらすべてがYZからのフィードバック。ヤマハならではのセンス溢れるスタイルとともに、またまたオフロードシーンが盛りあがりそうな気配です。

最後に、BWS。林道や砂浜へも、と由な発想力にただただ脱帽するばかりです。前後の太いタイヤ、140mmという高い地上高がかつてのスクーターの概念を超えた走りを約束。スクーターランのおもしろさを拡大するだけでなく、デュアルヘッドライトの個性的スタイルで街

るとともに、ラジアルタイヤを前後にセット。高速域での旋回性能の向上を計っています。

TZR250が強く主張するダイレクトな走行感が、こうした改良によりさらに明確な個性として成長を遂げる。モーターサイクルがどうあるべきか、をしっかりととらえているヤマハだからこそできた。『熟成』の典型だといえるでしょう。走りの本質が見えてきたライダー、いやベテランにこそ、この素晴らしいTZR250の世界を知っていただきたい。物を持つのではなく、走りの素晴らしさを持つ。この喜びこそ、モーターサイクルが求め続けなければならないテーマなのです。TZR250には、走る喜びがあります。



イク作りにおける進化というものを、ヤマハは発想の転換と伝統の中から、きちんと手堅くやっているとわかります。単なる見てくれの新しさだけでなく、ライダーが求めている『夢』をヤマハは、時に誰よりも早く、時にライダーとともに追い求めているのです。今回のモーターショー・ヤマハブースを見て、着実にやってくるモーターサイクルの新しい方向性を見つけることができました。これらのオートバイが発売される時、それらを手にしたユーザーは必ずや、今までに体験し得なかったバイクライフを発見するものと思います。

(山本一成)



の注目を浴びることも、あるいはワンボックスカーなどに載せて、アウトドアライフのアイテムとしても、BWSなら十分に応えてくれるでしょう。

以上の5機種はどれもみな新しいバイクの世界を拓いてくれる、とても魅力あるものばかり。でもよくよく考えると、バ

期待のバイクがズラリと出ました

つぎはみなさんとご同業、販売店の社長さんたちの声です。

TDRが光っていました

YOSHOPリバーズ・恒川雅史社長

モーターショー全体を見た感じは、近未来に近づいたなという印象でした。ヤマハではTDRに新しいイメージを感じました。

映画で言えば、マッドマックス。みたいな、オンでもオフでもどっちでもいける無敵な感じがあります。まかせなさい。っていうような感じですね。だからオンやOFFであきてきた人、オフやOFFでちょっとあきた人などに売れるんじゃないかと思えます。

ウチは今、オンロード中心のツーリングですが、TDRが出たら、オンロードを走ってオフロードもやる企画を立ててみるつもりです。奥多摩なんかいいんじゃないでしょうか。オンのいいコースがありますし、ジャリ道もまだ残っていますから。

そういったツーリングをきっかけに、バイクのトータルな需要をあげていきたい。お客さんの中で熱心な人にリーダー格になってもらい、バイクの楽しさを広げる形にしたいと思っています。

XVも反応あると思います。シングルにあきた人におすすめしてみようかな、なんて考えながら展示車を見ていました。

それと、他メーカーの似たようなタイプに乗っている人にもおすすめしたいですね。今までに出ている機種に比べると、かなり凝っていますから、のってくるんじゃないかと思っています。

XVはダントツでは売れないかもしれませんが、ソコソコの状態ですつと続くような気がします。ちょうどSRみたいな、息の長いタイプですね。

“大人のXV”が出てうれしい

YSP八王子北・田中朝昭社長

今回のモーターショーでは、順路の最後にニューモデルが置いてありましたが、私自身が疲れてしまったためか全体的にあまり強いインパクトは感じませんでした。

ま、そんな中で目をひいたのはXV。大人のXVという感じでいいですね。大人向きの250ccがなくて、30代40代の人に、もう一台ほしいけど、400ccは車検があるからなあって泣かれるケースが多かったのですが、これなら大人にすすめてもいい反応があるでしょう。

ドッシリしているけど、ポテツとはしていない。ハンドルが高くて、しっかりと尻をのせて、ゆっくり走れる。こういうタイプの250ccを待ってたんなんです。

これなら、試乗させる必要もないと思います。外観を見ただけでわかると思いますよ。あるいはちょっとまたがってみるくらいで十分お客さんは納得してくるでしょう。

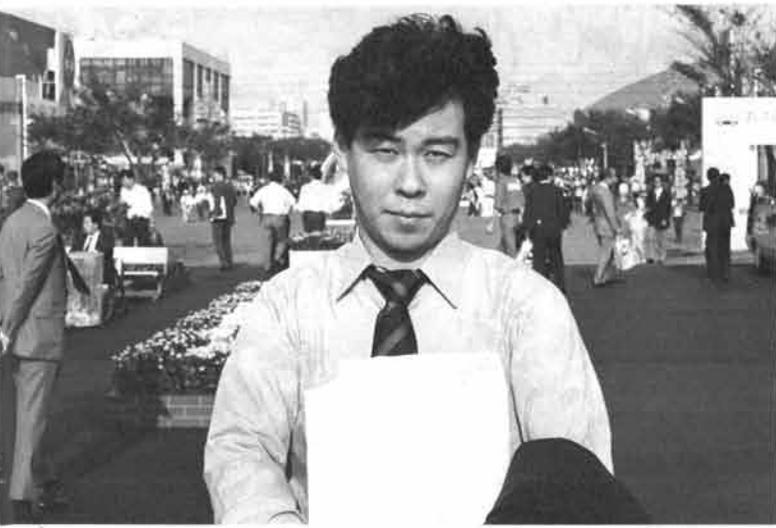
その点、TDRは、新しいタイプだけに未知数です。乗ってみなくてはわかりませんね。エンジンはTZRでも、乗った感じがどうか、オン、オフ両方って言



うけれど、どの程度までいけるかを確かめないと、ターゲットも絞りにくい。

XVと違って、ボンと置いておくだけでなく、乗り方などをアピールしなくちゃいけないバイクですから、まずそこらへんを確かめてから、と思っています。

スポーツタイプを追っかけている若い人が、新しいものに目をつけて、食いついてくるようにできればいいな、と思っています。



オフロードの食わず嫌いがなおりそうです

森田輪業・森田雅久社長

2年前のモーターショーに比べると、今年は新型が多くて活気がありましたね。そんな中で目をひいたのは、やはりTDR。今までレプリカだけがバイクとっていた層をオフに引き込めそうです。

ウチはオンロード中心でして、私自身そうなんですが、私もこれなら乗ってみようかと思えます。また、ウチにはモトクロスのチームがあって、プロみたいな人たちがいるんですけど、そういう人にもうけると思えます。

ただカラーリング面で、青と黒が出るのなら、YZ系の白と赤のタイプもほしいですね。もっとオフロードっぽくなっ

ではDTR25Rはと言うと、残念ながら、よくわかりません。TDRの販売で、オフロードをやるお客さんが増えれば、その影響で売れるかもしれないですけど。私も、まずTDRで走ってみて、オフでの性能も確かめてみたいと。

BWSもいいですね。50cc乗って、もの足りないお客さんがけっこういますから、そういう人は興味を示すでしょう。それに、50ccじゃほしいのがないからといって、そっぽ向いていたお客さんにもアピールすると思えます。

つまり、寝ているお客さんを起こす効果が期待できるといふことです。

でも、この良さは、スポーツバイクに乗ってる人でないとわからないでしょうね。ですから、試乗会を開いて、実際に乗ってもらいたいと思っ



待ってたタイプが登場しましたね

YSP成増・板橋一男社長

ヤマハのブースだけを集中的に見たんですが、待ってたものが出たな、という感じがしました。

たとえばTDR。販売戦略として、これからはオフロードを一所懸命やるうと思っ

ています。しかし、これまでのオフロード車ですと林道走行のイメージが強くて、オンロードばかりやってきた人にはすすめにくい面がありました。

TDRは、街も走れるし、高速も走れる、その上林道もいけるっていうタイプですから、うんとすすめやすくなります。

遊び方としては、高速道路を使って遠くまで行って、林道を楽しむというパターンが増えるんじゃないですか。そのため、販売対象は少し年令がアップしそうな気がします。オフロードをやる若い人は、高速はもったいないと言っ

て使わないことが多いので、TDRの高速性能にそれほどひかれないのではないかと思います。

YSP店の、仲間と一緒にヤマハブースを見学(右端が板橋社長)



イブですから、乗ってみたいとわかりません。TDRが出たら早速おろして試乗会をやります。

それと、今度のバリ・ダカーलとうまくからむといいなと思っ

ます。それと、今度のバリ・ダカーलとうまくからむといいなと思っ

こんな人たちがインタビューに答えてくれました

●年齢



●所有車



●乗車歴



ユーザーに聞く

注目、高性能ツーリングバイク バイクの価値は「自由気ままに 好きな場所へ行けること」

さて、最後を飾るのはお客さまたちの声です。10代から20代前半のヤングの男女30名に、今回のショーでもっとも気に入った車種と、日頃のバイクライフを聞いてみました。

10代は「TZR250」
20代は「TZR250」

まず最初の質問は、「出展車の中で一番興味を持った車種は?」。意外だったのは外観上の大きな変更点のない「TZR250」に10代ヤングの人氣が集中していたこと。また、20代でも女性は6名インタビューした内の3名が「TZR250」を挙げていたことです。

主な理由としては「知人が乗っていて良く目にし、いつかは自分も乗ってみたいと思っている」、「カラーリングが気に入った」、「ヤマハの2ストの最速車だから」などでした。

そして、注目の「TZR250」を支持したのは、圧倒的に20代前半から20代中盤までの男性ユーザー。気に入ったと答えてくれた10名のうち5名がオンロードレーサーレブリカに乗る人たちで、オフロードスポーツが4名、スクーターが1名という内訳でした。

こちらの理由はメカに関するものが多い。「エンジンがTZRと同じと聞いて、どんな走りをするのが楽しみ」、「一見するとオフロードモデルのようだが、ブ

レーキの装備やタイヤのパターンを見るとオンロード、興味あります」、「新しいジャンルなのがいい」、「ミラーではなく、解る人にだけ解る魅力」などといった具合です。

レースは好きだけど「別世界」

次の質問は、彼らのバイクライフについてです。興味を持っているモーターズポーツは、年令や男女を問わず圧倒的に「ロードレース」でした。実際にレース体験のあるユーザーはあいにく一人もいませんでしたが、30名中26名がロードレースに興味を持ち、残り4名がエンデュロレースとモトクロスでした。

全員がモーターズポーツに関心を持っていたのも興味深い結果でした。そして、今乗っているバイクの使用用途については、スポーツバイクに乗っている人たちは全員ツーリングと答えています。街乗りや通勤・通学は二次的な使用用途でした。

「TZR250」に興味を持った人たちに、「何に使いたいか?」との質問をしたところ、ほとんどの人たちが、「ロングツーリングに使いたい」と答えましたが、





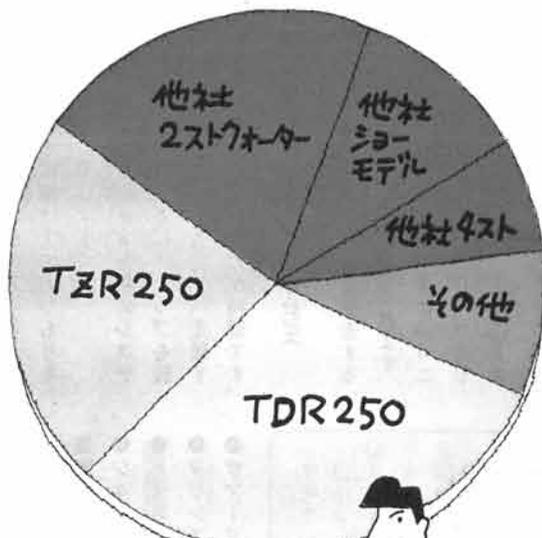
●内輪で話をしている、会話に入りずらく、買い物をするときだけ愛想が良い。
 (矢口幸一さん/23才・千葉)

●大型車を扱う店は、客が若いと態度が悪く不愛想なところが多い。
 (長谷川和也さん/22才・京都)

●バイクを修理に出したが、上りが遅く、パーツの取り寄せにも時間がかかる。
 (山田一博さん/17才・東京)

若い人たちを大切に!

この結果と合わせると、『TDR250』のニューコンセプトの意味がよりハッキリと理解できそうです。
 また、このツーリングについては、26名の人が月に1回以上行なっており、1回の走行距離も300km以上という結果が得られました。



興味を持った出展車

●メカに対する質問に気持ち良く応えてくれない。
 (竹本広海さん/23才・神奈川)

●店内が乱雑で汚なく暗い。
 (斉藤浩一さん/18才・千葉)

●売るときばかり親切、中・大型車のオーナーは良く相手にしているようだが、原付は無視される。
 (松下順哉さん/22才・埼玉)

●修理の明細を出してくれないので、何にお金を使ったのか判らない。
 (吉坂明子さん/21才・横浜)

●相談を持ちかけても親切に答えてくれない。
 (江本世津子さん/20才・静岡)

●女性用の用品が少なく、男の人ばかりで入りづらい。
 (金森英美さん/21才・東京)





夢とロマン、そして冒険心。

'88チャレンジ3000キロ

キャンペーンの概要が決まりました。

さらに乗車機会を増やす新システム

'88 Challenge 3000km ツーリングライセンス

アップシステム

1988年度のチャレンジ3000キロキャンペーンの概要が決まりました。来年度のチャレンジ3000キロは、今年の基本を継承しつつ、さらに走破する楽しみをステップアップ、スタッフの乗車チャンスを増やし、お店の固定客づくりにより大きく貢献するシステムになります。さっそくスタッフにご案内いただき、来年度のエントリー促進をお願いします。

1987年度のチャレンジ3000キロも、大好評のうちに最終段階に突入。スタッフの方々も、お店のみならず来年のエントリーに向けての心づもりをなさっていることでしょう。

このほど決まった1988年のシステムは、3000キロごとにステップを設け、その都度ライセンスを発行し、走破する楽しみを大きくしているのが特徴です。

●3000キロチャレンジジュニアプラン

エントリー後3000キロを完走すると、ノービスライセンスが発行されます。さらに3000キロ完走するとジュニアライセンス、さらに3000キロ走るとエキスパートライセンス、さらに3000キロでスーパーエキスパートライセンスの発行となります。

このように3000キロの完走ごとにステップと新しいステップのツーリングライセンスを発行していくことにより、エントリー者は常に新たなチャレンジ目標を持つことができ、より新鮮なバイクライフを送れるものとしています。

この部分がお客さまに'88チャレンジ3000キロをご案内するときの最大の訴

求ポイントとなります。

●チャレンジ1000キロも同システム

スクーターユーザーを対象とするチャレンジ1000キロも同じシステムとなります。ライセンスの名称もまったく同じで、走行距離が1000キロという点だけが異なります。

●豊富なバックアップメニュー

日本列島3000キロを遊びのフィールドとして、新しいバイクライフを提案するチャレンジ3000キロは、YES S活動のメインキャンペーン。来年度も豊富なバックアップメニューを整え、

●ジェットツーリング

●ナイスツーリング

●マリンスポーツ&ツーリング

●サマーフェスティバル

などに加え、さらに豊富なメニューを企画、一層の充実を図ります。

●固定客増加を促すツールとして

今年チャレンジ3000キロに積極的に取り組まれたみなさまは、実感されているはずですが、このキャンペーンは、固定客づくりに大きな威力を発揮します。

まず、走行目標を設定することで、ユーザーの乗車機会が増え、整備などのご商売のチャンスが多くなります。

また、代替のニーズもより大きくなりますし、イベントへの誘いもしやすくなって、固定客化がすすみます。

ユーザーのニーズを満たし、同時にご商売を有利に展開するチャレンジ3000キロ。来年度のステップアップを機会に、充分にご活用ください。

夢とロマン、そして冒険心。

'88 Challenge 3000km





フロアー・ザ・トレンド

仕掛人に聞く、若者たちはいま

トレンド流行

スポーツ施設急増!

健康派、ファッション派入り乱れてイチニッサン!

ジョギングのブームが少し落ち着いてきたと思ったら、エアロビクスやウエイトトレーニング、水泳などのスポーツをする人が急を増えてきました。

ジョギングもスポーツには違いありませんが、走ろうと思えばどこでも走れます。ところが、今人気があるのは施設を使うスポーツ。しかもほとんどが指導員について行なうスポーツです。

■86年中に183が開設

下表をご覧ください。これはスポーツ施設の増え方を示したのですが、1970年には13カ所しかなかったのが昨年は600近くにも増えています。

しかも、そのうちの70%がこの3年間にできています。今年の統計はまだ出ていませんが、見聞している限りでは同じようなペースかそれ以上の感じで増え続けているように思えます。

■業種を問わず大手企業が進出

こういった施設は、かなり大きな敷地が必要ですし、設備費もかさみます。

そのためか、最近この業界（と言っていいかどうかわかりませんが）に進出しているのは、大手企業が多いようです。

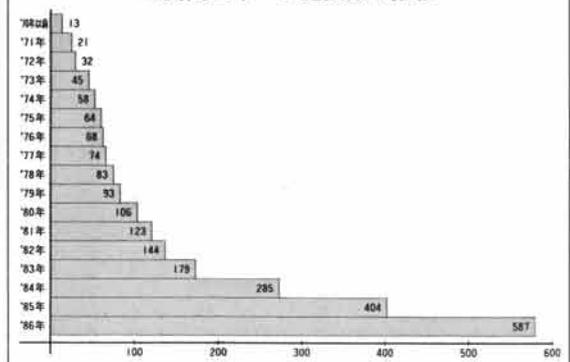
88年4月の完成予定も含めて、新しい施設のオーナーをあげると、パレスホテル、千代田生命、NTT、日新製糖、日商岩井、サントリ、東京ガス、大丸百貨店、住友不動産、キッコーマン、日本たばこ、テオーシー、日本セメント、大成建設、という具合になります。

さまざまな業種の大手企業が並び、まるで大学生の就職先人気企業ランキングのようです。

■入会金100万円も!

スポーツ施設のほとんどは会員制をと

■民間スポーツ施設数の推移



つています。入会金20000円という低料金のシステムをとっているところもありますが、そういう場合でも正会員は数十万円の保証金が必要が多いようです。また、保証金とは別に、やめるときに返還されない入会金が数十万円いるという高級施設もあります。

このように高級化しているにもかかわらず、スポーツにお金をかける人は増え続けているようで、最近の例では、入会金・保証金あわせて100万円、それでも申し込みが殺到、担当者のほうがビツクリ、というような話題まで報道されました。

■エアロビクスと水泳が中心

たいていのスポーツ施設に共通しているのはエアロビクスのコースです。女性を中心ですが、最近では男性もやり始めました。

プールを持つ施設は、それに比べると少ないようですが、人気の点ではエアロビクスと肩を並べています。

仕掛人に聞く、若者たちはいま

仕掛人

小澤 孝氏

株東京アスレティッククラブ
営業部長

水泳やエアロビクスは
花嫁修業のようなものです

■日本ではじめての会員制
スポーツクラブ

——スポーツクラブの老舗とうかがいま
したが、オープンは何年ですか。

「昭和45年7月15日です。日本ではじめ
ての会員制スポーツクラブでして、競技力

の向上よりは、運動の楽しさを知って
もらう施設としてスタートしました。

一般の人の身近なところに、そういっ
た施設を提供したい、というのが創立者
の考えだったようです」

——はじめはどんな種目があったのでし
ょうか。

（小澤孝氏プロフィール）昭和24年東京生まれ。
昭和47年東洋大学経済学部商学科卒業と同時に
株東京アスレティッククラブ入社。以来、
同社の業務をすべて経験し、日本体育協会の
「トレーナー」資格のほか、日本体力医学会等の
学会登録もしている、社会体育のプロフェッ
ショナル。

「水泳と潜水、リズム体操、機械体操、
ウェイトトレーニング、ジョギングなど
です。基本的なところは今と同じです」

——最初から潜水があったんですか。

「そうです。専用のプールがありまして、
スキングダイビング、スキューバダイビン
グ、板飛び込みができるので、当時から
愛好者にはよく知られていました。今で
も人気のある種目です」

——プールはいくつあるんですか。

「25メートル7コース、20メートル4コ
ース、水深5メートルの飛び込み用と水
深15メートルの潜水プールの四つです」

■花嫁修業になった
エアロビクス

——最近の傾向とか変化のようなのはあ
りますか。

「そうですね、昔は子供が多かったので
すが、今は大人が半分くらいです。男性
は中高年、女性は20代30代が中心です。
女性の20代30代40代は特に多いです」

昔は子供優先の考え方で、何よりもまず
子供というふうだったのが、最近では自分
のことは自分で守らねば、という考え方
になっているように思います。

病気のおしゅうとさんを見ている主婦
や、子供のいるお母さんなんかもいらっ
しゃいますし、20代でも健康意識は強い
ようです。本物志向というんでしょうか」
——若い女性は時間があるでしょうね。
「いや、そうでもないんですよ。最近



休日が多くなった分、残業が増えている
らしく、職場から出るのが遅くなってい
ます。デパートだって7時までやってい
るんですから。

それから家へ帰ってトレーニングって
いうと遅くなります。ここなら大手町か
ら30分くらいですから、8時か9時のク
ラスには間に合うわけです」
——余った時間でやっているんじゃない
んですか。

「時間もお金もやりくりしてやっています
よ。洋服を買うのをがまんしてレオター
ドを新調するとか。

彼女たちは、エアロビクスやジャズダ
ンス、水泳などをやることで気分と体の
コントロールをしているようです。何
もやっていなかっただときは、気持ちがあ
空回りしているようだったって、言います
ですから、今のエアロビクスやジャズ
ダンスは花嫁修業のようなものじゃない
ですか。昔、お茶とかお花をやってセン
スを磨いたりしたのと同じことじゃない
かと思えます」

——はあ、花嫁修業ですか。それで熱
心にやるというわけですか。



「それだけじゃありませんけどね。ゴルフやテニスだと毎日っていうわけにはいきませんでしょ。それに遅刻しても何分かはできますから、月謝をムダにしなくすむという理由もあるようです(笑)」

「それもやりくりのうちなんじゃないかね。」

「かもしれない。運動をするのだから健康な体をつくり、美しくなり、気分も良くなるというふうには、いくつもの効果があるわけですし(笑)。」

「体もそうですが、若い女性は見えないところにオシャレしますね。忘れもの、ポーチ(小物入れ)を見ると、リンスなんかいいのを使っていますよ(笑)。なんとかプロテインって、2000円も3000円もするのがありますでしょ、ああいうのの小ピンが入ってるんです」

■ファッション性だけでは続かない

「最近スポーツクラブがファッションみたいになっていますが、こちらの場合はちょっと違うようですね。」

「そうですね。決してファッション性を軽視するわけではありませんが、それだけでは続かないと思います。」

「運動は、続けないと効果がありません。きっかけはファッション性でもいいんですけど、それを続けさせるのは、指導員の能力やクラブ全体の力です。雰囲気や料金、システムなど、いろんな要素が整っていないと、継続は難しいです」

「料金はいくらくらいですか。」

「コースによっていろいろなんですけど、たとえば、親子で水泳をする場合は月1万2000円くらいです。その他に入会金が2000円、年会費が3000円必要

です。」

「なるべく入りやすく、ムリなく続けられるように、できる限り低料金にしています。その分、ウラで節約していますけどね(笑)」

「雰囲気づくりで気をつけていらっしゃるのはどんなところですか。」

「ここは会員の方のクラブなんだっていうことを、折りにふれてアピールします。みなさんのものだから、モノを大切に、気持ちよく使っていたきたいと思えます。乱雑な感じがでてきたときは、館内放送やチラシなどで注意を呼びかけます。」

「うるさいと思う人もあるでしょうが、これはやっていくしかありません。そうしないと、良質な人が逃げてしまいますから」

■キメウチでないところがつける

「スクールの種類はいろいろありますが、約40です。水泳と体操という骨組みはオープン以来変わりませんが、新しいものを次々に取り入れていくと、どうしても多くなります。」

「これは、よく言われるように、ニーズが多様化しているからだと思います。オートバイだってそうじゃないんですか。50ccもあれば1000ccもある。どっちがいい、じゃなくて、バラエティーに富んでいることがいいんでしょう」

「若い人に人気のあるスクールは何でしょうか。」

「水泳とエアロビクスですね。マタニティ水泳なんかも多いです。一週間で500〜600人くらいの妊婦の方が泳いでいまして、今までに3000人くらい生まれています(笑)。」

「女性のボディビルもあります。こちらは1週間に200〜300人くらい。体を丈夫にするために始める方がほとんどです」

「なるほど、いろんなことをやってみたいんですね。」

「そうですね。3年前から、朝5時45分から8時半までの早起き会というのをやっています。これはどの施設も自由に使えるんです。キメウチじゃなくて、何でもできるところがうけています。毎月200人くらいが汗を流していますよ」

■忙しい人のために
早朝・深夜営業

「朝の5時45分ですが。どんな人が来るんですか。」

「OLや、手に職を持つてる人が多いですね。金融関係や銀行、不動産関係です。夜の8時頃まで仕事をする人が多いので、朝やるといって人が多いです。デ

「サイナーの人などもそうですね。男性ではお医者さんや商社関係。朝のうちに汗を流しておく、8時間の手術もへこたれずに行けるんだそうです」

「夜の部もあるんですか。」

「ええ。ナイトキャップサークルというのを夜11時40分までやっています。こちらは男性が多いです。自営業の方とかです」

「みんな忙しいんですね。」

「そういうことなんです。でも時間を上手に使っているというふうにも言えるんじゃないでしょうか。忙しいからって何もやらないんじゃないですね。」

「そう考えると、24時間営業もあり得るかなと思います。しかし、健康のために夜中に運動するということもねえ(笑)。夜中にやって悪いということはありませんが、そこまでやらなくても、という感じですよ」



ニューモデルの
お客さま ⑫

FZR400R

クラスで一番速いバイクを
探していました



野原栄二さん(東京都港区)

●32才・会社員・独身・所有免許・中
型二輪・普通車●二輪車乗車歴・4カ月
●FZR400R・62年8月購入●購
入店・知人から●FZR400R以外
の所有車なし

「実はバイクの免許を取ったのが、まだ最近なんです。友人が大勢バイクに乗っているもので、みんなに、もう4輪の時代じゃないよ、なんて説得されてきてね(笑)。以前から4輪の方のモーターサイクルは好きで、20代の頃はチューニングしたクルマでFISC0を走ったりしましたから。もともとスピードに対するあこがれみたいなものは持っていましたけど。」

このバイクを選んだのは、やはり買う

んだったらクラスで一番速く走れるバイクっていうことで、免許を取りに行っているときから専門誌をジックリ読んで調べていたんですね。

そのとき、誌名は忘れてしまいました。各メーカーの400cc車のスペック比較記事を見つけて、それを読んだらこのバイクが一番だった。スタイリングもひと目で気に入りましたね。

最初ちょっとクラッチワークが難しかったですが、すぐに馴れました。仕事が忙しくて時間が取れず、今はほとんど通勤にしか使っていませんが、都内でも十分に楽しいバイクですよ。本音のところは、近いうちに時間を作って、このバイク本来の走りを楽しめるような速出を試みたいですね。」

これはもう驚きです!

神出慎一郎さん(新潟県)

●24才・会社員・独身・所有免許・中
型二輪●二輪乗車歴・8年(原付を含む)
●FZR400R・昭和62年5月
購入●購入店・YSP新潟中央●FZ
R400R以外の所有車なし

「オートバイの専門誌に紹介されたとき、まさかと思ったけどサーキットからそのまま出てきたスタイル、性能に驚きました。」

FZR400Rの前は同じ4サイクル4気筒モデルを持っていましたが、これは友人から購入した中古車なので、いずれ新車とと思っていたところにこのFZR400Rの情報が入ってきたのです。価格が高いのにも驚きましたがしばらくして「YSP新潟中央」へ行ったら、その従業員のほうがFZR400R

を持っていたので、いろいろと質問をしたり、乗り味を聞いたりしているうちにこれなら、高額であっても納得できると購入申し込みをしました。

乗ってみてエグザップの効果なのでしようが、エンジンがスムーズでトルクの落ち込みがなく、サスペンションなど足まわりもしっかりしていて、安心できます。

レースに出場する気はありませんが、今あるバイクの中では一番満足度が高いモデルですね。

FZR400Rは現在ツーリング使用が100%で、蔵王、会津など仲間と300kmほどの日帰りツーリングに出掛けたり、たまに一人で県内をソロツーリングしたりしています。

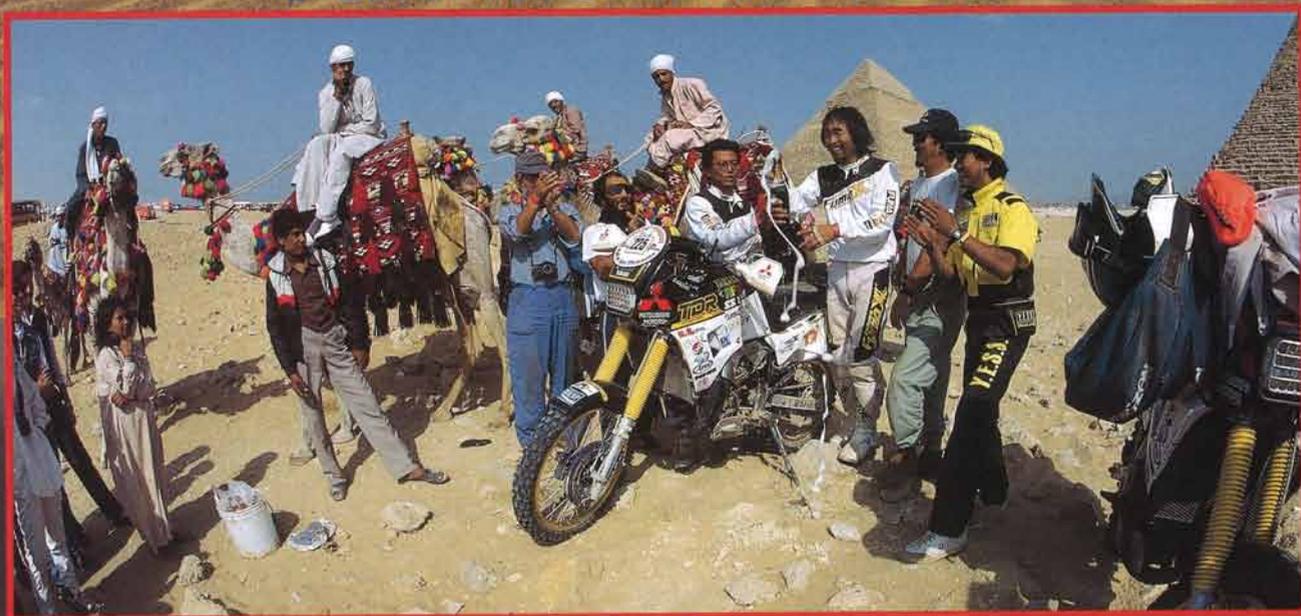
これからもツーリングでFZR400Rの良さをもっと確かめていきたいです。」



風間深志/TDR250

'87ファラオ・ラリーでクラス優勝!

PHARAONS RALLYE

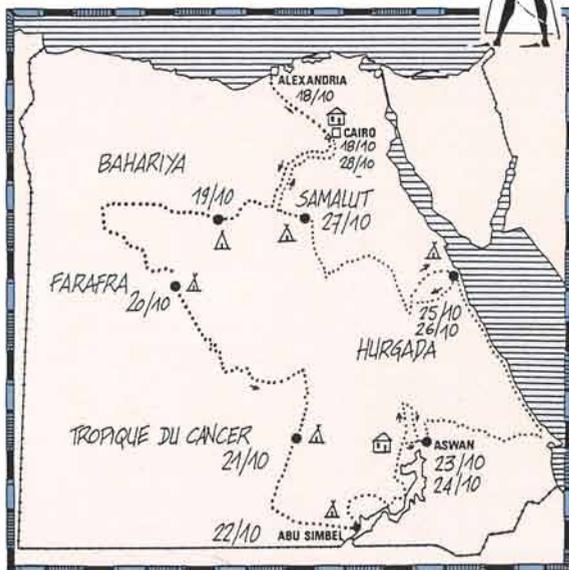


灼熱の地・アフリカ大陸の北端にあるエジプトの砂漠を11日間、4815.64kmにわたり走り切る過酷なデザート・レース“ファラオ・ラリー”で、完成間もない「TDR250」を駆る風間深志がみごとクラス優勝を飾りました。

ラリー最終日419.50kmのスペシャルステージを走り切りこの日のタイム6時間2分33秒、16位でゴールし、250ccクラス優勝を決めた風間を囲んで祝杯を上げるMACのメンバー



デザートを快調に飛ばす風間/TDR 250。「2サイクル2気筒のパワーはオフロードで140km/h、アスファルトで180km/h以上の速度が出た」と、彼はその驚きを語ってくれた



6回目を迎えたこのレース。今年は10月18日から28日にかけて開催され、世界各国からモーターサイクル89台、4輪109台がエントリー。日本からはヤマハ「TW200」とともに北極点到達の偉業を成し遂げた風間深志をはじめとし、ミュージシャンの宇崎竜童や俳優の根津甚八、「YSP等々力」の浅井明社長らのメンバーによる「MAC (モーターサイクル・アドベンチャー・クラブ)」の面々が「TDR 250」を駆って参加しました。

途中、宇崎と根津の2人がリタイアとなったものの、風間、浅井の2人は順調にペースを上げ、3日目で浅井がトップに立ち、4日目には風間がその後にくるといって大健闘。

そしてレースも終盤を迎えた10日目に、浅井惜しくもチェックポイントをひとつ落とし、3時間のペナルティ。このため順位を入れ変えてクラストップに立った風間が最終日もそのままリードを続けゴールを迎えた。風間とTDR 250のタイムは45時間34分42秒、総合でも完走35台中16位という好結果をものにしました。

またこのレースでは、ヤマハ「TT600」を駆るフランスのL・メダルド選手が総合2位に入りました。

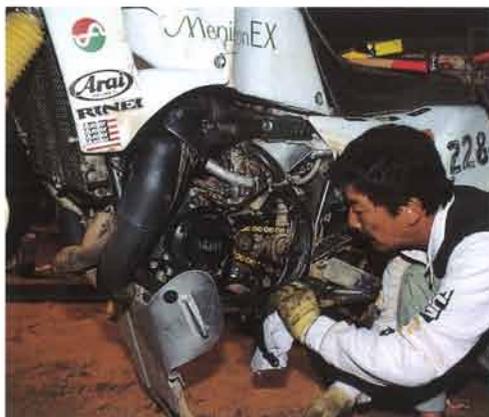
PHARAONS RALLYE



ラリー3日目(10/20)でクラストップに立ち8日目まで風間とクラス1,2位をキープしていた浅井。(10日目にリタイヤ)



TDR250改は話題的的で、キャンプではマシンを見に来たり質問をしてくる外人メカ、ライダーが後を絶たなかった



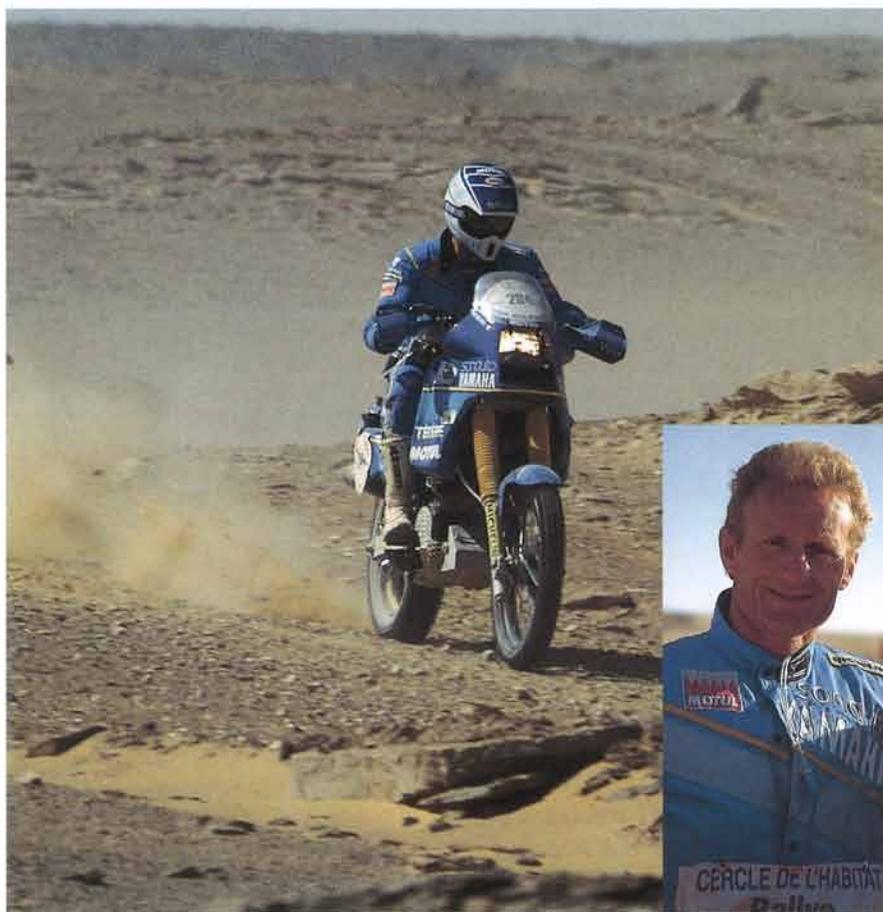
キャンプ地に着くと食事を取る時間も惜しんですぐマシンのチェックと整備が始まる



PHARAONS RALLYE



ヤマハ T600 で総合2位に入ったL・メダルド



ラリーではもうすでに常連となったJ・オリビエ、今回も総合4位と大健闘をした



フランスのディーラー「HF MOT92」からヤマハの4輪バギーでエントリーしていた女性ライダーの姿も



キャンプのテントでは毎晩その日の成績発表と明日のコースのチェックを行なうブリーフィングが行なわれる

情報スクランブル
お忙しい販売店さんのための情報アンテナ

BOOKS

●マンガで見るレースの初歩
『スポーツバイク』

オンロード、オフロードにかかわらず、レースを知らない人は、「あれは特別な人がやるもの」と思いこんでいることが多いもの。この本は、そんな人のために、なに気なくお店に置いておきたい入門書です。かわいい女子大生を主人公にした物語になっていますから、レースのレの字も知らないお客さまでも、気軽に入っています。

また、YZF750をはじめ、YZR500、YZ80など、ヤマハのバイクもたくさん登場します。やまさき拓味・作画
角川書店 490円



●排気音が聞こえる推理小説
『風のターン・ロード』

推理小説の分野で最も権威のある江戸川乱歩賞の、今年の受賞作がこの作品です。作者は24歳。これまでもオートバイ小説を発表していますが、今回の受賞も、いきいきとしたオートバイ描写がポイントを稼いだ結果

果のようです。

物語の舞台は神戸。六甲山周辺の快適な（ときには危険な）ライディングがワクワクもので、再度ドライブウェイで激しいバトルが演じられるシーンなど、ライダーにとっては、推理のほかにも一つおまけがついているおトクな本。お店の本棚に二冊いかがですか。



石井敏弘 講談社 1000円

●クリスマスBGMに
『アコースティック・クリスマス
／アコースティッククラブ』

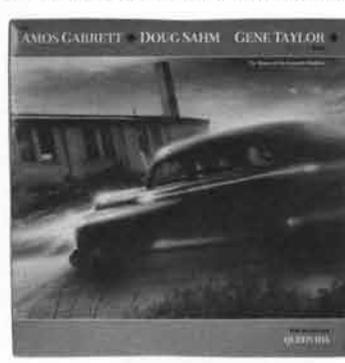
気の早いところではもうクリスマスソングが流れています。今年のクリスマスイベントはお決まりですか。クリスマスを前にした、ウキウキした気分を演出するために、アコースティックなサウンドをおすすめします。日本のニューエイジミュージック



クシンの大物たちが奏でるウッドディーナサウンドは、あたたかみのある、ユニークなムードを作り出してくれることでしょう。クラウンレコード 2800円

●ときにはポリウムを上げて
『ザ・リターン・オブ・ザ・フォ
ーマリイ・ブラザーズ／ザ・エイ
モス・ギャレット・ダグザーム・
ジーン・テイラー・バンド』

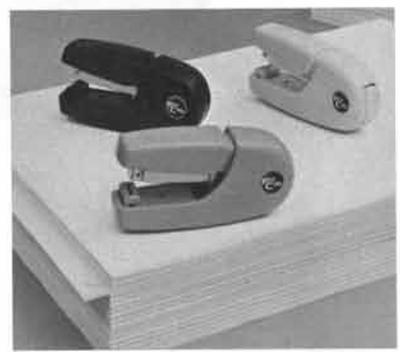
長い名前で恐縮ですが、タイトルを訳してみれば『帰ってきた昔の仲間』といったところです。3人の大物プレイヤーが作り出すサウンドは、カントリー、ケイジャン、ガンボ等の音楽ソースを絶妙にブレンドしたバイヨースワンプミュージック。ときにはお店のオーディオもポリウムを上げて、緊張感のある音を楽しんでみるのもいいのではないのでしょうか。



AMOS GARRITT DOLG SAHM GENE TAYLOR

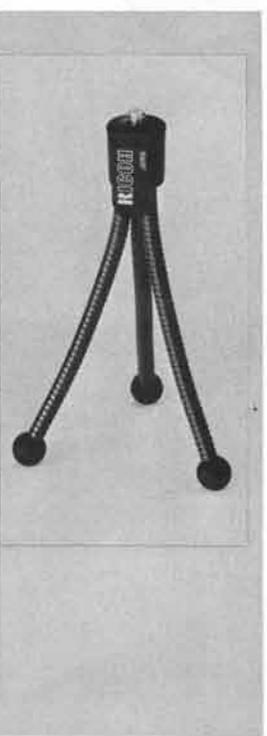
●針がかさばらないホッチキス
『フラットクリンチ』

ふつうのホッチキスは、とめたときに針の裏側が丸くなっているの、同じものを重ねるとそこだけ高くなります。



この『フラットクリンチ』は、後ろが丸くなりません。その分書類が薄くなる、すぐれモノです。価格はちょっと高めですが、形ものにぎり心地もなかなかgood。書類整理や保管の合理化にご活用ください。

●ツリーリングに便利
『リコー・ミニ三脚』



ツリーリングの途中で、バイクと一緒に写真を撮りたい、などというときがあると便利なのが三脚です。この三脚は長さ13cmのミニサイズなので、胸ポケットにスッポリしかも足はグニャグニャ曲がるフレキシブルタイプ。便利でひょうきんな、アタツチメントです。色Ⅱ赤 1500円
お問合せ ㈱リコー ☎03(479)3111

●働きもののワゴン
『マイティ』
オイルやパーツを乗せて移動できるワゴンは、後片づけも簡単で便利なものです。このワゴンは、3段と4段、キヤスター2輪固定と4輪自在の計4種類。高さは約75cmと約1m。価格は26600円〜29400円。赤と緑があります。
お問合せ 明治産業㈱ ☎03(59)2111



YAMAHA NOW

ヤマハの企業活動は、いまこんな広がりを見せている

陸から海へ、そして空へ



11月の澄みわたった空に、薬剤散布装置を搭載した無人ヘリコプターが舞い上がりました。青空の中で赤と白と青のヤマハカラーに塗り分けられた機体があざやかに輝きます。

これは25日に茨城県の農林水産省農業技術研修館で開かれた産業用無人ヘリコプターの展示・デモフライトの光景です。この生まれたばかりのヤマハ産業用無人ヘリ「R-50」は、薬剤散布や航空写真撮影の関係者からたちまち注目をあびることとなりました。

ヤマハ発動機は昭和58年4月に、農林水産省の外郭団体で農林水産航空事業を管轄する㈱農林水産航空協会から、同軸二重反転型の遠隔誘導式無人飛行散布装置の開発を受けました。それは東京大学名誉教授中口先生を委員長とするR-CASS委員会、ヤマハの小型高性能エンジン技術と軽量構造技術が期待されていたことでした。その同軸二重反転型の



無人ヘリの開発を進めるかたわら、60年暮からはヤマハ独自開発の産業用無人ヘリ「R-50」の開発が始まりました。

そして今年、これまでの研究・開発の成果として、98ccの既存エンジンを利用した、全長3・565メートル、全高1メートル、30分の燃料を積んでヘイロード（有効積載量）が20kgの無線誘導式産業用無人ヘリ「R-50」が完成しました。

産業用無人ヘリコプターは現在各国で開発と試作が続けられていますが、20kgのヘイロードを有する本格的なものとしては、ヤマハ薬剤散布用無人ヘリ「R-50」が始めて実用化に大きく近づいたものとなりました。

当初は農業用として農薬散布やゴルフ場などの松くい虫防除の薬剤散布と、撮影用カメラとモニター用カメラを搭載した航空写真撮影用の二つの用途で実用化を進めています。すぐれた飛行性能と運搬・移動も容易な軽い機体であることから、将来は各種制御装置を搭載して幅広い用途に使われるものと思われまます。

このヤマハ産業用無人ヘリ「R-50」は年内にモニター販売される予定ですが、これによってヤマハ発動機の事業分野は、二輪車を中心とした陸上部門、プレジャーボート、漁船などを扱う海上部門に加えて、「空」の分野にも大きくはばたこうとしています。

女性インストラクターの指導日記

みんな持つてる
ライダー願望



珍しく年配の女性ばかりが集まった。原付免許受験講習の会場だった。年令というハンデを、充分意識した不安な面持ち。静かで引つ込み思案な雰囲気、ヒシヒシと伝わる。

ブカブカとカッパを着た汚めの私を、いぶかしげに眺めていた冷やかな眼差しが、時間とともに親しみの色に変ってくる。ひとりひとりに声をかけると、これまで不安でいっぱいだった胸の内がほとばしる。すると一気に雰囲気は軽くなる。

「車と車両は同じですか？お店で買った問題集と、お店でいただきたい

問題集の答えが違うので判らないです。まだ他にも違うところがありました」

質問や不満も飛び出してきます。間違えたことを教えると、受講生はたちまち混乱してしまふ。お店で問題を用意するときは、答えを良く吟味し、くれぐれも慎重にアドバイスして欲しいものだ。

免許を取る理由も含め、今いる受講生に二、三質問をしてみた。

A「バイクに乗りたいたいと思っただので、どうせ受けるなら暖かい時期にやれば良かったと思うのですが、なかなかキツカケがなくて」

B「ずっと前から免許は取りたい

なあ、とは思ってたんですが、この歳じゃ無理だとあきらめていたんです」

C「ひとり暮らしが長いもので、娘夫婦にすすめられたんですよ。これからの人生は、自分のために楽しもうかと思っただけです。ハハハ……」

シビアナ冗談をサラリと話す、明るい女性である。

D「ウチの周りの人はみんなバイクに乗っている。別に坂が多いわけじゃないけど、みんなバイク。だから買物なんかに行くとバイクばかりで、自転車なんかじゃバカにされちゃう」

かなりの年配の人までも、みんなどこかに「バイクに乗りたいたい」という気持ちを持っている。差し迫った必要性はないけれど、キツカケさえあれば「乗りたい」と思っている人は、まだまだ多いようだ。

女性の就労率がますます高くな

る昨今だが、専業主婦もカルチャースクールやボランティア、その他の地域活動などで、さまざまな社会的フィールドを広げている。

かつてはパートに出るためや仕事で必要だからと、仕事に起因する必要性から原付免許を取る人が多かったが、現在は「あると便利」「近所の仲間とうまく付き合うため」など、二次的な理由に変わってきているのかもしれない。

だからキツカケも、ふとした事が多いようだ。

A「通りかかったバイク屋さんの看板で免許教室があることを知って、受講だけでもしてみようかと思っただけで受験まですることになりました」

B「ボランティア活動で週2回通う会場が、自転車で25分ぐらいかかるんですね。ボランティア仲間におすすめられて、その気になったのが4日前です。時間が短かすぎ

ますね」

ある地方新聞に、おばあちゃんライダーの記事が載ったことがある。65才の時に原付免許を取って70才を過ぎた今でも現役でツーリングを楽しんでいるそうだ。北海道や九州など、日本各地を気ままに50ccで旅している。孫とのツーリングも楽しみにしているという。

行動半径の拡大とともに、交友関係も年令を越えて深まっているようだ。原付の快適さを楽しんでいるのは、若者だけの特権ではない。お買物バイクの域を越え、幅広い層に、機会さえあればバイクを楽しみたいという人はいるし、これからはもっと増えると思う。

時間に縛られる大学教授が、ストレスがたまり精神科医に相談したとき、いつでも自由に移動できる車の免許取得をすすめられたという話があった。原付は自由で手軽に移動できる。

(終)

感謝の気持ちをヤマハラしく

ヤマハ・オリジナル・ノベルティ①

感謝の気持をヤマハで包む

1年間にわたってご紹介させていただいたヤマハ・オリジナル・ノベルティの数かず。みなさまのご協力により、どのノベルティ・グッズも好評を得ることができました。'87年ノベルティ最後の紹介は、ヤマハの包装紙です。どうぞお客さまへの真心を、ヤマハで包んでお渡してください。

また、'88年に向けて、新しいヤマハ・オリジナル・ノベルティも準備中です。来年もご活用、よろしく願ひいたします。



DRESS(ドレス)ネットワーク 1000店に!

販売店のみなさまとヤマハをオンラインで結ぶ、補修部品・用品の国内発注ネットワークシステム(ヤマハDRESSシステム)が、この10月30日をもって1000店になりました。よりスピーディで正確な部品・用品の配給を可能にし、業務の効率アップを図ることを目的に昭和59年よ

り導入を推進してきたDRESSですが、みなさまのご理解とご協力により、業界最大、全国的に見ても有数のネットワークを完成することができました。今後はさらに高度情報サービス機能を駆使したシステム化を実現し、みなさまのご商売により貢献できるものとしていきます。



1000店目のDRESS導入店となった(株)レオ・タニモト(京都)さんで行なわれたセレモニー

ヤマハ東京(株)管内 優秀スポーツショップが参集



〔ヤマハ東京(株)〕第27回東京モーターショーのゲスト招待日となった10月29日、ヤマハ東京(株)では管内の優秀ヤマハ・スポーツショップさん250店と、台湾のヤマハ販売店さん50店さんを招いて、モーターショー見学を兼ねた「87ヤマハ・スポーツショップ・ミーティング」を開催しました。

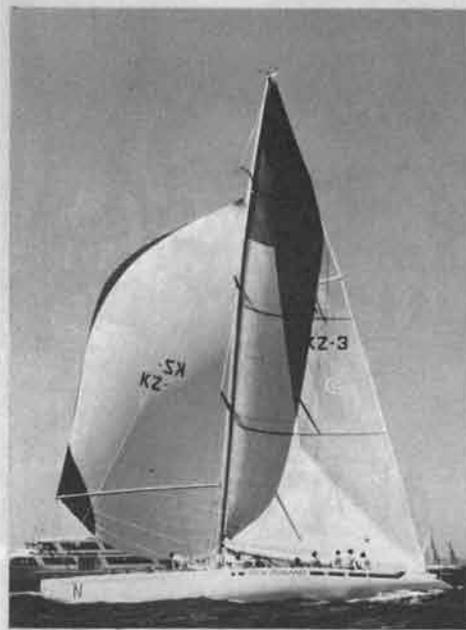
このミーティングは、オフロード、レーシー、テイステイ、YSRのカテゴリ別4部門に分けて、「87年シーズン中、部門ごとにもっとも積極的な活動を展開した販売店さん」を招



いたもの。モーターショー見学後のミーティング会場では、優秀店60店さんの表彰をはじめ、台湾ヤマハ販売店のみなさんとの台日交友会、ナント交換などで友好をわかちあい、来期の新たな進展を誓って大いに盛り上がりつつありました。

ニッポンチャレンジ・アメリカズカップ通信

①



ニッポンチャレンジ・アメリカズカップ1991委員会
日本から次回のアメリカズカップ(ヨットレース)に挑戦の名乗りをあげている「ニッポンチャレンジ・アメリカズカップ

1991委員会」は、このほど12メートル級ヨットヘニュージーランド号の2隻を購入したと発表しました。

NZ艇購入へ

この2隻は、今年2月に決勝が行われたアメリカズカップ・レースで大活躍し、「キウィ・マジック(ニュージージーランドの魔法)」と呼ばれたヨットと同型のものです。

また、この型は、世界初のFRP(強化プラスチック)製で、今後の艇の主流になると考えられており、今回購入されたうちの1隻は、昨年2月の世界12メートル級選手権で2位になった艇です。

同委員会の山崎達光会長は、以上のような理由のほか、2隻がまったくの同型で、クルーのトレーニングに最適であること、保存状態が極めて良いことなどを購入理由としてあげています。

この2隻を参考にして、日本独自のレース艇が開発される予定。同委員会の活躍が期待されます。

時代を築いた名車たちの祭典 『ヤマハ・オールデイズ・バイク・ミーティング』開催

「Y.A.I.」や「Y.D.S.I.」
「X.S.I.」など、ヤマハを代表する1975年以前の歴代の名車80台が、11月3日・文化の日に、袋井ヤマハコース（静岡）に集合しました。
これはY.E.S.S.本部事務局が主催した「ヤマハ・オールデイズ・バイク・ミーティング」での光景。参加した200名の旧車ファンのみならず、自慢の愛車とともにサーキット走行を楽しんだり、懐かしのフィルムを見たりと、秋の1日を大いにエンジョイしました。



往年のライダー長谷川氏と本橋氏を招いてのティーチンも大人気



Y.E.S.S.スタッフ218名、秋の高原に大集合



〔ヤマハ東京機〕 バイクビレッジを定期開催し、毎回200名以上のY.E.S.S.スタッフを集めるY.E.S.S.東京支部で、11月2日〜3日の2日間にわたり「バイクビレッジin白樺湖」を行いました。

秋本番を迎えた信州の高原での開催とあって、多少肌寒さを感じる陽気でしたが、会場となった、池の平ホテルには東京周辺のスタッフ218名が参集。特別ゲストで来場したロードレース500cc全日本チャンピオンの藤原儀彦選手とともに、ゲームやクイズなどを楽しみながら、親睦を深めました。

楽しさ実感、SDR&オフロードライディングスクール

〔ヤマハ東京機城東営〕10月21日と22日の2日間、城東営管内のY.S.P.社長さんをメンバーに、SDRアンドオフロードライディングスクールが催されました。21日は富士バイクランドで、セロ

1225、TW200、DT200Rなどを使ってオフロードライディングスクールを開催。簡単なトリアルも体験しました。午後は富士山をグルッと回るコースをツーリング、峠攻めを含む約1



青森消防本部へ ヤマハ除雪機納入

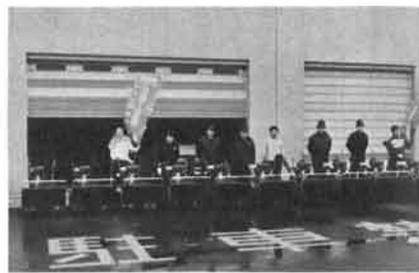
〔ヤマハ東北機〕10月21日、YSP青森さんより、ヤマハ除雪機「YT875」10台が、青森消防本部さんへ納入されました。

青森の冬は雪が深く、ときとして交通がとまるほどの量になります。

しかし、消防署では、「雪で動けない」などと言ってはおられず、雪を除いて出勤しなくてはなりません。

今回、YT875が採用されたことは、その除雪性能の良さを証明したと言えます。

また同様に、YSP青森さんの実績と信用のためでもあります。



納入を前に整列したYT875

90人のマスツーリングで 富士スノーパースプリント観戦



なお、東北地方では、8月から除雪機のご商売が展開されており、各販売店さんでも、次々に予約を獲得しています。

今年冬は、東北地方のいたる処で、ヤマハ除雪機にお目にかかることになりそうです。

〔YES S横須賀〕10月25日(日)

YES S横須賀スノーパースプリント観戦ツーリングが催され、折からの悪天候にもかかわらず、80名のスタッフが参加しました。

朝6時30分、神奈川県宮花水駐車場に集合したスタッフとインストラクター、世話役の鈴木モータース株式会社員合わせて90名は、インストラクターの先導で整然と出発。

10時30分にFISCO到着。決勝戦を楽ししく観戦しました。

天候が悪かったため、当初の参加予定130名には達しませんでした。参加した方は「面白かった。小人数で走るのもいいけど、100人近くのツーリングするのも迫力あっていいね」と、満足していました。

また、集会所から途中、246



途中の大井松田で休憩。レインウェアを着ている気分は青空でYES Sサイ



号大井松田付近までは、テレビ神奈川が同行し、二輪車の安全運転について取材。参加者のみなさんは、いくぶん緊張しながらも取材に協力し、イベントの一部として楽しみました。なお参加者は決勝入場券、二輪駐車券、昼食代込みで6000円でした。



オフロードYRSで 秋冬のご商売を活性化!

〔ヤマハ東京機多摩店〕「TW200」や「セロー225」などのニューコンセプトモデルの登場によりグッと楽しみの幅を広げたオフロード・スポーツ。まさに88年期待の市場といえそうですが、そんな中、東京都下にある「YSP日野」さんと「YSP立川」さんの両店は、富士バイクランド(山梨)を会場に2店合同の「オフロードYRS」を開催

しました。

4月に行なわれた初回に続き、2回目の開催となった11月8日は天候にも恵まれ、30名の参加者は思う存分に自然を楽しみ、オフロード走行を満喫し、さらに昼休みにはバーベキューも。シーズンオフの話題づくりと、ユーザーへのオフロード訴求には最高の機会と、早くも来春の開催が検討されていました。

00kmの総行程を楽しみました。

このイベントは、

- ①各店でSDRを試乗車としておろして、社長さん自らSDRを体験し、セールストークを身につける。
- ②オフロードライディングスクールを通し、オフロードの楽しさを体験し、自店でオフロードライディングスクールを開催できるようにする。

という二つの目的を持って開催されましたが、続いて開かれたYSP会議では、SDRの楽しさを面白さが次々と語られ、その目的を十分に果たしたことが確認されました。



■'87MFJグランプリロードレース大会

史上最高のファンを集めデッドヒート展開!



前大会の第11戦でGP500ccクラスのシリーズチャンピオンを決めた藤原儀彦

'87シーズンの最後を飾る全日本選手権シリーズ第12戦・第24回MFJグランプリロードレース大会が、11月8日、秋晴れの茨城県・筑波サーキットで開催された。

世界GP500ccクラスにフルエントリーし、ランキング6位の好成績を収め、当大会に出場を予定していた平忠彦は、肋骨の骨折が原因で残念ながら出場を断念したものの、新チャンプ藤原儀彦の活躍で会場は大いに沸いた。

有終の美を飾った 新チャンプ藤原 (GP500)

注目のGP500ccクラスは、世界GPで平と並び活躍中の八代俊二が好スタートを切って始まった。しかし、1周目の第1ヘアピンでポールからスタートした'87年度新チャンピオンの藤原儀彦が八代をパスしてトップに立つ。トップを快走する藤原は、後半から



最終戦で優勝し、今季2勝を上げた町井邦生とYZF750



さらにペースを上げ25周を走り抜き今季4勝目をマークした。

町井邦生、優勝で ランク3位(T-T-F-I)

かわって、T-T-F-Iクラスは予選3番手の宗和孝宏がスタート良く飛び出し、その後を町井邦生、大島行弥、宮崎祥司と続く。3周目、町井はトップの宗和をかわし、一気にトップへ。その後も58秒台のハイペースで25周を走り切り優勝。同時にシリーズランキング3位に入った。

大激戦が展開された今シーズンのGP250ccクラスは、当大会で清水雅広とテール・ツノーズをくり広げた本間利彦が2位に入り、シリーズランキング3位となった。

ヤマハフレームRA2を駆り、'87FKチャンピオンに輝いた杉山茂雄



■'87全日本カート競技選手権・最終戦 杉山茂雄、FKクラスで シリーズチャンピオンに輝く

'87全日本カート競技選手権シリーズ戦FK(135cc)クラスは全5戦が生まれ、その最終戦が11月7、8の両日、静岡県のみま恋カートコースで開催された。

決勝7番手スタートで、ラップを重ね前車を次々にパスし、30周を走り切り3位でチェッカーを受けた。

この結果、杉山はトータル95ポイントを獲得し、念願のシリーズチャンピオンに輝いた。杉山は、'74年に全日本A1クラス、'82年に全日本AIIクラスのチャンピオンを獲得しており、このFKクラスのタイトルで史上初の3クラス制覇をなしたことになる。

お店のイメージアップに、来店促進に ぜひ、ご活用ください!

'88 YAMAHA RACING GOODS

今年の新春チャンピオンシップカーニバルなどで即売し、お客さまの人気を集めた『ヤマハ・レーシング・グッズ』の'88年度版が完成しました。

商品として、ノベルティとして、ご商売に

フルにご活用いただける5アイテムです。冬場の来店促進とお店のイメージアップに、どうぞご活用ください。

※お問合わせ、申込みは担当のヤマハ営業マンに、お気軽にどうぞ。

ヤマハレーシング'87→'88

'87年第1号を発行して人気を呼んだ、ヤマハレース活動の集大成。とくに第2号は、ヤマハライダーの活躍を華麗なグラフで構成し、ヤマハ・ライダー名鑑としてもご利用いただける内容となっています。ヤマハ・レース活動のイヤーブック。ヤマハファンのお客さまに、ぜひお持ちいただきたい冊です。

- A 4判、36ページ・4色・1色
- 主な内容
- ロードレース、モトクロス、トライアル、エンデューロ、四輪F3000……におけるヤマハライダーの活躍ぶり
- '87→'88ヤマハ・ワークスライダー名鑑●歴代ヤマハライダー●'88ワールド・レーシングカレンダー



'88平忠彦カレンダー

多くのお客さまから、ひときわ要望の高かった平忠彦選手のワン・マンカレンダーも製作いたしました。テック21チームで、マールポロ・ヤマハチームで、またヤマハファクトリーチームで、大活躍のグランプリ・ライダー平忠彦の勇姿を、迫力いっぱいの大画面、6枚で構成。カレンダーとして、またピンナップ・ポスターとしてもお使いいただけます。

- B 2判 (ヤマハレーシング・カレンダーと同一サイズ)、表紙1枚・本紙6枚・全4色



平忠彦ポストカード

『平忠彦カレンダー』の6シーンに、さらに2シーンを加えた全8枚のポストカードセット。平ファンには最高のノベルティ。『平忠彦カレンダー』と、どうぞセットでご利用ください。

- ポストカードサイズ・全8枚・全4色・特製ケース入り



ヤマハライダーズ テレホンカード

すでに16タイプを発売して人気を呼んでいるYES.S.テレホンカードシリーズに、4種類のニュータイプが登場します。人気ライダー・平忠彦とケビン・マギー、全日本チャンプ・藤原儀彦(ロードレース)、伊藤敦志(トライアル)の4種類です。

- 50度数
- YES.S.テレホンカードシリーズ No.17藤原、No.18伊藤、No.19マギー、No.20平



'87ヤマハ メーカーチャンピオン獲得記念ステッカー

世界GP.500ccクラスにおけるヤマハ2年連続メーカーチャンピオン獲得を記念したステッカーシート。ヤマハV2の立役者となったエディ・ローソン、ランディ・マモラ、平忠彦の3選手のライティングシーンで構成。ひと味違ったステッカーとしてお使いいただけます。

- A 5判サイズ、4色



SALES

『TDR250』導入キャンペーン ご協力よろしく申し上げます

先の二輪専門誌での正式発表に続き、この12月から来春にかけて、『TDR250』の導入プロモーションが展開されます。時代を先取りしたニューカテゴリー！モデルにふさわしく、多角的に、『TDR250』の魅力をアピールしていきます。どうぞご協力のうえ、ご拡販よろしくお願いたします。

●『TDR250』予約キャンペーン

期間 12月1日～1月20日
内容 オリジナルトレーナープレゼント
告知 12月1日発売『オートバイ』誌「モーターサイクリスト」誌のYSS
広告欄/店頭ポスター/YESS



●YESS沖縄『TDR250』

試乗ツアー

期日 2月下旬～3月上旬
内容 2泊3日の行程で那覇空港より、『TDR250』をモニター試乗。グループ20名で3回実施を予定しています。また、5月下旬までの期間システム化も予定しています。

右記以外にも、試乗車活用による試乗機会作りを充分に行う予定です。どうぞ今までのなかった『TDR250』ならではの魅力を、お店のオリジナルテイイっばいにお客さまへご案内ください。

SERVICE

どうぞご活用ください 研修センター

東京・東

みなさまのご理解とご協力により、着実に市場へと浸透する『ヤマハ二輪車整備士制度』。おかげさまで、『ヤマハ二輪車整備士講習会』も全国各会場とも、毎回盛況を呈しています。

そんな中でこの11月より、ヤマハ東京（株）東営業所3階に『研修センター東京・東』が開設され、稼働をはじめています。今後ますます重要性の増すお店の技術サービス力向上に、積極的なご利用をお待ちしています。



〈ヤマハ二輪車整備士講習会・開催スケジュール〉

会場	北海道ヤマハ	ヤマハ東北	研修センター 東京南	研修センター 東京東	研修会館 (ヤマハ中部)	ヤマハ中部 (北陸)	研修センター 神	ヤマハ中国	ヤマハ四国	研修センター 同
12		B 8-10	B 1-3 2M 7-9 2M 14-16	B 10-12 B 17-19	B 9-11		B 1-3 2M 15-17	B 8-10 (岡山)		2M 2-4
63 1	2M 21-23 2M 25-27 B 28-30		2M 25-27	B 21-23 B 28-30	B 11-13	B 21-23 B 25-27	B 12-14 2M 20-22	B 12-14 (広島)		B 19-21
2		B 15-17 B 18-20	B 2-4 2M 8-10 2M 15-17 2M 22-24	B 18-20 B 25-27	2M 3-5 4M 17-19		B 2-4 2M 8-10 B 24-26	B 18-18 (広島)	B 4-6 (高松) B 8-10 (松山)	B 16-18
3		B 7-9	2M 1-3 B 8-10 2M 14-16 B 23-25 4M 29-31	B 17-19	B 1-3 B 16-18		B 3-5 B 10-12 4M 17-19 4M 25-27	B 9-11 (岡山)		2M 3-5

B: ベイシッククラス 2M: 2サイクルマスタークラス 4M: 4サイクルマスタークラス
※都合により開催日の変更及び中止の場合があります。ご了承ください。

●このページは、ヤマハ発動機各課から販売店のみなさまへのご案内です。さらに詳しくは、担当のセールスマン、各特約店、販売会社のサービス課(サービス)、普及課(セフティ/モータースポーツ)、部品営業課(パーツ)までお問い合わせください。

『Y・D・S・ヤマハ・ビッグバイクスクール』の '88年開催日程が決まりました

大型二輪車の正しい運転技術の修得や大型二輪免許取得希望者の実技試験練習機会として、全国初の二輪専門教習所である、ヤマハ・テクニカル・センターを会場に開催されている『ヤマハ・ビッグバイク・スクール(YBS)』の、'88年開催スケジュールです。

従来とは変り、来年からは受講資格の一部を変更。限定解除試験・事前審査にパスしない方でも、中型免許を持っている方ならどなたでも参加できます。信頼ある内容のままに、さらに参加しやすくしました。限定解除を目指すお客様さまに、どうぞご案内ください。

〈日程〉

- 第1回……2月20日～21日(土、日)
 - 第2回……3月23日～24日(水、木)
 - 第3回……4月16日～17日(土、日)
 - 第4回……5月14日～15日(土、日)
 - 第5回……6月22日～23日(水、木)
 - 第6回……7月20日～21日(水、木)
 - 第7回……9月17日～18日(土、日)
 - 第8回……10月19日～20日(水、木)
 - 第9回……11月19日～20日(土、日)
 - 第10回……12月17日～18日(土、日)
- 受講料 ¥35000(教材費及び昼食代、当日宿泊費が含まれています)
●募集人員 / 一回30名

『'88 ゴールデンウィーク公開 『トップドック』』

世界へとはばたい日本ロードレース界のスーパーヒーロー、平忠彦をクローズアップした映画が、'88年ゴールデンウィークに公開されます。この映画の最大の見どころは、従来のオートバイレース映画がGPシートの総合的な紹介であったのに対して、平忠彦の人間性にスポットを当てながら、そこからレースの熾烈な世界を表現していることです。

世界の強豪を相手に、一歩一歩地道な努力により頂点を目指す平忠彦の姿が、大きな感動を呼びます。どうぞお客様さまへご案内ください。



AD

〈12月のヤマハ提供番組〉 取材快調 / さらに内容充実の『ONアンドOFF』

'88年4月で放送3年目に入るヤマハ提供の『ONアンドOFF』。モーターサイクルとマリンスポーツ、海と陸の両方を舞台とした素晴らしい映像はとどまるどころを知らず、ますます快調に取材はすすんでいます。ヤマハのスポーツマインドあふれる番組です。お客様さまにご案内ください。

ニユース22・プライムタイム

ホットな情報を身近に伝える新タイプのニユース番組「ニユース22・プライムタイム」も提供中です。お客様さまにご案内ください。

放送日 / 月曜から金曜の毎日
放送時間 / 夜10時から10時45分
放送局 / TBS系列

■風間深志 / TW200北極点到達特別番組
バイクによる北極点到達という世界初の偉業を成し遂げた、風間深志氏とヤマハ「TW200」の活躍ぶりが、ドキュメントで放送されます。

静岡放送 / 毎週日曜日11時から11時15分
北海道文化放送 / 毎週水曜日24時10分から24時25分
東日本放送 / 毎週金曜日24時15分から24時30分
テレビ新広島 / 毎週金曜日24時10分から24時25分
RKB毎日放送 / 毎週日曜日23時40分から23時55分

静岡放送 / 12月29日・23時20分～50分、
テレビ東京、テレビ大阪、テレビ愛知、テレビせとうち / 12月30日・23時0分～30分



運営方針は“超放任主義” 気ままに楽しむレース活動が大ウケ

YSP前橋西チームクルー

■YSP前橋西/下田敏喜社長
(群馬県前橋市大友町1-1-15)

手軽に楽しめて、本格的GPレーサー気分が味わえる。こんなところが魅力となつてか、全国各地で人気沸騰中のMP12レース。

今年最後のYES Sクラブ通信は、このMP12レースに参加するお客さまたちにより、お店を中心として自然発生的にできた元気いっぱいクラブ「YSP前橋西・チームクルー」をご紹介します。

●楽しいことはすぐ広がる

「YSP前橋西・チームクルー」が発足したのは今年の3月、クラブ員数は11月10日現在で32名です。なぜ11月10日と

断ったかというところ、このクラブは毎日にその規模を拡大し、このニュースが発行される頃には40名、50名の大世界に成長している可能性がきわめて大きいからです。「店のクラブというところ、普通親睦を目的に結成されたツーリングクラブ的なものが多いのですが、この「チームクルー」の場合は逆で、まず活動があり、そこに集まった人たちの間に自然に親睦が生まれる、といった形です。

この活動ってというのが、MP12レースへ出場すること。ですからクラブの全員が明確な活動目的を持っているわけで、活気も自然に出てくるという感じですよ。



全員がライダーで全員がピットクルー、チームワークも抜群で毎回必ず10本以上のトロフィーを持ちかえる

最初の頃は私を含めて好きな仲間たち4-5人で出場していたんですけど、自分たちがやってみて楽しい事っていうのは他の人にも勧めやすいですし、店の中でも良く話題になりますよね。そんな話を聞きついたり、店の中で出場しているお客さんが勧められたりで、知らないうちに出場メンバーが増えてきたので、クラブにしたというわけです。

●会則、会費、共にナシ

現在エントリーしているレースは地元赤城カートランドで行なわれている、Y

ES Sぐんまミニバイクレース・シリーズ”と筑波サーキット・東コースで行なわれている「YES S東京シリーズ」Y ES S関東シリーズ”。中でも地元シリーズは、毎回クラブ員のほとんど全員がエントリーするという盛り上がりです。「クラブにしたといっても、もともと全員が店を通してYES Sというクラブに所属しているわけですから、特別な組織づくりはせずに、MP12レースに参加している人たちの「チームクルー」という名のもとにまとめた程度のもので、ですから会則みたいなものは何もあり



ませんし、会費もなければ会長もいません。参加したい時に自由に参加する、という「超放任主義」(笑)のクラブですね。でも、この「超放任主義」っていうのもメリットが意外と多いんですよ。会長がいなくて会則もないということで、とても伸び伸びした雰囲気があるんですね。全員が会長という見方もできるわけ、なにかやるときに色んな角度からとても自由な意見が数多く集まります。それだけイベントの中身が濃くなるというか、ユニークなものができますよね」

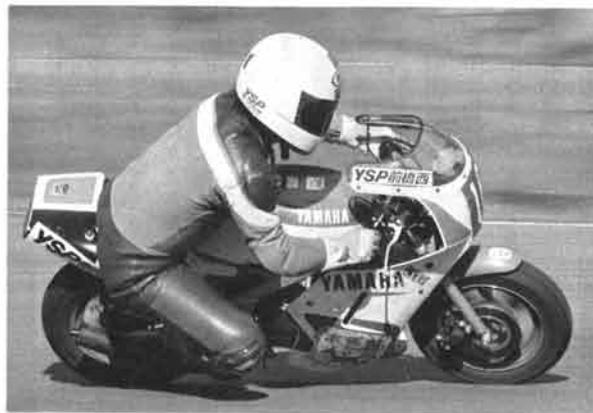
●店の人が一緒だから「安心」

クラブの発足、運営法ともにユニークな「YSP前橋西・チームクルー」ですが、このあふれる活気にはもうひとつ、大きな理由がありました。



レースの間にはこんなひとときも。こっちの方が楽しいというメンバーも意外に多いとか？

みんなの良き手本？下田社長の豪快な走り



ースとなれば未経験の人たちには不安も多く、入りづらいと思います。ですから面倒見役みたいな形で、私も一緒に参加しています。身近にいる人間が参加していて、しかも店主も一緒なら、なんとなく安心してもらえんじゃないかと。でも、本当のところは私自身このレースが楽しくて仕方ないからです(笑)。

私や店の者が一緒に参加するというのは、クラブ員にとっては店と親しい付き合いをしている証になり、一般客との差別化意識も植えつけられるんじゃないでしょうか。

16才の時からモトクロスをはじめ、国際B級まで昇格。現在はMFJの役員も務めるという頼りになる下田社長が、いつも一緒にいてくれる。この安心感こそが、クラブ員にとっては何よりのパワーとなり、毎日にメンバーを増やし続けています。

基本は「コミュニケーション」 育てます固定客

YSP新潟中央 遠藤幸雄社長

新潟市新和54-025(284)6602

各地から初雪の便りが届く季節となり、いよいよ本格的な冬の到来。今回はそんな中、冬仕度に忙しい雪国・新潟のYSP店のニューフェイス「YSP新潟中央」さんをお訪し、魅力いっぱいのお店づくりをうかがってみました。

●旧店舗時代の経験を活かし 効果的な店づくり

「YSP新潟中央」さんの前身は、現在の店舗から3kmほど離れたマンション1階にあった、広さ16坪の「モトハウス・ブリス」です。

遠藤社長は5年ほどこの店舗で「商売を営まれていましたが、坪数を見てお判りのとおりちよつと手狭。そこに60台ものバイクを展示し、ご商売をしていたのですから、この10月にオープンしたYSP店の店づくりに対しては熱が入るのも当然といったところ。旧店舗時代に成し得なかった遠藤社長の店づくりの理想が、

真新しい店舗のいたるところに活かされています。

お店のある場所は新潟駅の南側、通称「駅南」と呼ばれる地域で、ここは2年前に県庁が移転してきたこともあり、行政や商業の中心地として、今後の発展が大きく期待されている場所です。

「今の店の敷地面積は100坪、建物は40坪ほどありますが、バイクの展示台数は以前の店と同じ60台です。

展示車をお客さんにジックリと観察してもらえようように、スペースを開けて、余裕を持つように心掛けました。またいでもらったり、しゃがみ込んで覗いたりできるようなね。

前の店では2段にバイクを展示していたものですから、上の段のバイクを見たいと言われる度に、降していたんです。信じられないでしょ(笑)。

それから、技術サービスを行なうピットスペースもショールームとは分離して8坪ほどあります。こちらも間口を4間と広くして、バイクの出し入れが楽にできるようにしました。前の店とは較べものにならないほど効率的です」

このピットスペース横には、新商品を展示するためのガラス張りの展示スペースも設け、お店の良きアイキャッチャーとなっています。

お客さまにとっては見やすく入りやすい、スタッフにとっては使いやすい店舗。お店の完成度に、まずは納得の遠藤社長です。

●ファンを育てるツーリング

さて、次は新しいお店に集まるお客さまたちですが、旧店舗とは場所も違えばお店も違う。こんなところから新しいお客さまたちで連日賑わっていることはもちろんですが、旧店舗時代のお客さまとのお付き合いも以前と変わらずに続いていることも見逃せません。

「お客さんの固定化は、やはり日頃のコミュニケーションで決まると思います。うちではその基盤となる活動として、毎月2回の日帰りツーリングと、年に2回の宿泊ツーリングを続けています。常時集まるのは、20台から30台といったところですかね。

開催にあたっては、必ず新規の人や女性、初心者のみなさんを電話で誘って、半数はクラブ員、そして半数はビギナーという具合に、参加者を意識して混ぜて

左より中野稔平さん・榎高橋商店新潟支店営業課課長、遠藤幸雄社長、スタッフの水島新二さん、久美子奥さま、中島秀人さん



います。

ビギナーの人たちに、バイクの遊び方や楽しさを知ってもらう目的と、ツーリングを機会に常連さんを介して、お客さん同志のコミュニケーションも育てばいいな、なんて思っているからです」

また、この定例ツーリングの他に、今年から開始したのがレース観戦のバスツアー。SUGOで行なわれた「TTF1レース」と「TBCビッグロードレース」の2回開催しましたが、お客さまからは「車中は色々な人とコミュニケーションができるし、家族も連れて行ける」と大好評です。

こうした活動の結果、現在300名のお客さまが固定客として顧客リストに登録されています。



「DM、チラシよりも確実なのは電話です」と今日もツーリング情報を伝えて来店を促す遠藤幸雄社長



ショールーム内は広くゆとりがある。正面奥の壁はミラーとなっていて店内を広く見せている



店舗前にあるガラス貼りの新商品展示スペース



ショールーム奥にあるお客さまコーナー



●一年の商売は冬に決まる

県内でも新潟市は降雪量の比較的少ない地域とはいえ、11月から翌年の2月にかけてはまったくのシーズン・オフ。しかし、この時期の活動が春一番とともにやってくる春の需要を左右します。

「うちではシーズン・オフの間、お客さんのバイクを有料で預かり、春先に点検整備をして届けるというサービスをやっていきますが、この冬はこれに加えてもうひとつ、シーズン・オフの遊びも提供して、春からの来店を活性化しようと計画中です。」

来店が途絶えがちになり、なんとなく店離れしてしまったということも結構あるものですからね。そんなことのないように、スキー大会やボウリング大会、新年パーティーなどを開催して、冬の間もお客さんに定期的に店に足を運んでもらおうと思っています。

今までの売上げの7割強が紹介販売です。ですから、お客さんがひとりでも店離れしてしまうのは、先ざき大きなマイナスとなりますからね。この時期に逆にパイプを太くしておくことが、来春からの商売を順調にするポイントになると思います。」

新しい店舗とともに、ますます意欲的にご商売に取り組み、遠藤社長です。

'87-'88 Fall & Winter Collection

'87-'88 フォール&ウィンター・コレクション

TEAM YAMAHA

TY107F/Wプルゾン



TY108Wジャケット

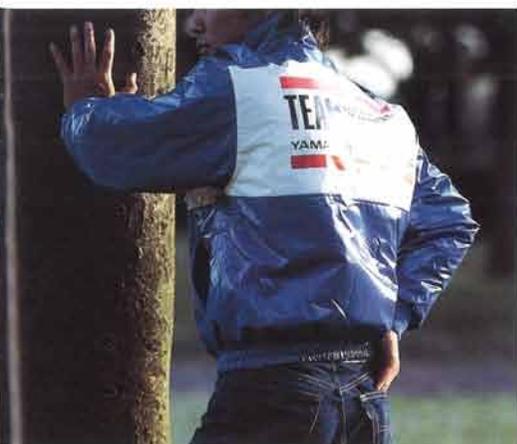


TY106Wプルゾン



発売以来、機能とファッション性の両面からスポーツバイクに乗るお客さまたちに、絶大な支持を得ているヤマハウェア「チーム・ヤマハ」にFWアイテムが加わりました。好評のレーシング・イメージはそのままに、運動性、防寒性などをさらに細部にわ

たって見直し、より充実したライディング機能を満載しての登場です。「チーム・ヤマハ」フォール&ウィンター！コレクションのご案内により、お客さまにこの冬のホットなライディングをおすすめください。



AT113コーデュロイキャップ



AT114Wキャップ



TY609ニットカーディガン



AT112ソックス



TY501オーバーパンツ

品名	カラー	サイズ	標準小売価格
TY106 Wフルゾン	赤/白、青/白	M~LL	¥19,800
TY107 F/Wフルゾン	赤、青	M~LL	¥36,000
TY108 Wジャケット	赤、青	M~LL	¥32,000
TY609 ニットカーディガン	白	M~L	¥ 8,800
TY610 ハイネックシャツ	白	M~L	¥ 4,800
TY501 オーバーパンツ	赤、青	M~LL	¥16,000
AT111 ネックウォーマー	赤、青、白	フリー	¥ 3,000
AT112 ソックス	赤、青、白	フリー	¥ 2,500
AT113 コーデュロイキャップ	赤、青、白	フリー	¥ 2,600
AT114 Wキャップ	赤、青、白	フリー	¥ 2,700

第27回東京モーターショーもうひとつの話題 ヤマハ用品コーナー

巻頭カラーページでご紹介のように、大きな話題を呼んだ第27回東京モーターショーのヤマハブース。そんな中で、ヤマハ・テクノロジーの結集ともいえる展示各車と並び、来場者の熱い視線を集めていたのが、会場2階のヤマハ用品コーナーです。

“快適思想YAMAHAのトータル・ライディング・ギア”のテーマのもとに、近未来を予感させるシステムヘルメット『S A』や文化服飾学院（東京）の学生たちの手によるまったく新しいライディング・ウェアの展示など、ヤマハらしい自由な発想が、詰めかけたライダーたち注目の的となりました。



AD

THE LATEST

地平を越えて。

YAMAHA

ROUGH ROADER TDR 250

ライダーは住み慣れたその都府を、朝早くあとにする。アスファルトロードを次々とたぐりよせ、麓つかの峠を越えてここまで来た。めざすはあの地平の彼方だ。そこにはまた見ぬ新しい道が、彼を持っている。大自然を貫くオフロードへ、ためらうことなく彼は走り出す。砂塵をまきあげて、遠かな地平へと向かう一本道。彼が越えようとしているのは、あの地平だけではない。ロードだ、林道だ、波の腹の内に引かれていた一線を過ぎ去って、ライダーとして新しい領域に踏み込んでいこうとしている。それを可能とするもの、それがこのTDR250。ライダーとともに今、TDR250は新たなモーターサイクルの次元を切り拓く前に発とうとしている。TDR250パワーユニットがたたき出す強烈なパフォーマンス。オフロードを走破するシャシー。そしてニューバウタイヤを越えた足まわり。地平を越えるマシンは、次元をも越えてしまう。オフロード-TDR250。さあすべての道へ

●TDR250仕様
●エンジン型式：250cc
●最大馬力：25.0kW (34.0ps) / 6000rpm
●最大トルク：22.0kg-m (215.0N-m) / 4000rpm
●燃料消費率：28.0km/l
●最大走行速度：150km/h
●全長：2050mm
●全高：1100mm
●全幅：700mm
●最低地上高：130mm
●座高：780mm
●乾重量：180kg
●総重量：210kg
●オイル容量：3.0L
●タンク容量：18L
●タイヤ：フロント180mm幅、リア170mm幅
●ブレーキ：フロントディスク、リアドラム
●サスペンション：フロント倒立式、リア単式
●ヘッドライト：1個
●サイドスタンド：標準装備
●色：黒、白、赤、青、黄、銀



HAVE A NICE RIDE! **フェイスライディング**をしよう！
●フェイスライディングとは、ライダーの顔面を保護するためのヘルメットを装着して、オフロード走行を楽しむことです。フェイスライディングは、オフロード走行において最も重要な安全対策の一つです。フェイスライディングをしよう！フェイスライディングをしよう！フェイスライディングをしよう！

Y.E.S.S. **モーターバイクライフ**
●Y.E.S.S.とは、YAMAHAが発行するモーターバイクライフの略称です。モーターバイクライフとは、モーターバイクを楽しむための雑誌です。モーターバイクライフは、モーターバイクの最新情報や、モーターバイクの楽しみ方などを紹介しています。モーターバイクライフをしよう！モーターバイクライフをしよう！モーターバイクライフをしよう！

- 今回のモーターショーで衝撃的なデビューを飾り、にわかに話題沸騰の『TDR250』を紹介した2輪専門誌広告です。
- 少しでも早く全容を明らかに——多くの方たちから寄せられるこんな声に答えて、発売に先がけてひと足早い誌上発表です。
- オンロード、オフロードの区別なく、性能のすべてを遺憾なく発揮する『TDR250』ならではのパフォーマンスを、どうぞお客さまにご案内ください。